

建築教育ニュース

2006. 11

東日本建築教育研究会

目 次

1. 会長挨拶	会長 能 智 功	1
2. 平成17年度事業および会計（決算）報告	事務局	2
3. 平成18年度事業計画・会計（予算）報告	事務局	4
4. 平成18年度役員一覧	事務局	6
5. 平成18年度総会・研究協議会報告	浜松工高：名 倉 悦 男	8
6. 夏期研究協議会に参加して	金沢市立工高：中 田 智 晴	11
7. 計画分科会報告	主 査 川崎総科：岩 上 成 輝	13
8. 法規分科会報告	主 査 小石川工：米 原 良 慈	15
9. 製図分科会報告	主 査 東総工高：小 島 聡	26
10. 構造分科会報告	主 査 葛西工高：沢 野 茂	31
11. 施工分科会報告	主 査 昭和第一学園：田 辺 登	36
12. 製図コンクール運営委員会報告	委員長 関東第一高：塩 澤 泰	40
13. 資格取得推進委員会報告	委員長 墨田工高：鈴 木 隆	47
14. 平成18年度 建設系高校生体験実習報告書	葛西工高：白 井 尚 美	48
15. 関東ブロック活動報告	蔵前工高：小 澤 誠 志	49
16. 北海道美唄工業高等学校 建築科	美唄工高：西 尾 正 人	50
17. 北海道旭川工業高等学校 建築教育の現状	旭川工高：長 島 恒 介	52
18. 茨城県の工業高等学校建築教育の現況	下館工高：太 田 康 史	54
19. 神奈川県立向の岡工業高等学校 建設科	向の丘工：鷹 野 正 明	57
20. より高きを求めてやまない「尚美」のころ	高岡工芸：磯 辺 哲	59
21. 事務局ニュース・報告	事務局長 田無工高：鈴 木 健	61
22. 編集後記	委員長 墨田工高：伊 藤 和 生	62

◆東日本建築教育研究会ホームページ◆

http://www.geocities.jp/hn_kkk/

1. 会長挨拶

会長 東京都立田無工業高等学校長
能 智 功

当会の会員の皆様におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。

日頃、当会の諸事業にご協力していただいていることに、あらためて御礼申し上げます。

現在、日本の経済もやっと光が見え出し、順調に回復している旨のマスコミ報道がされています。建築業界は地域格差が大きく、都市圏ではマンションの建築ラッシュですが、地方によってはまだまだ厳しい所もあるのが現状です。

しかし、生徒の就職は2007年問題の影響等のために昨年と比較して、改善の傾向にあります。生徒の進路保障という点からは、好ましい状況になりつつあると言えます。

さて、つい最近まで日本の工業製品は世界から「安全・信頼」「なかなか故障しない。故障してもすぐに対応して、修理する」等の評価を得ていました。

しかし、どうでしょうか。現在のわが国の現状は大声で胸を張って世界に過去のようなことを言える状況でしょうか。

原子力発電所の故障、自動車のリコール、暖房機の故障、湯沸しの安全装置問題など。新聞紙上を騒がせている日本の工業製品はいまや「安全」からはどうみても遠い存在です。

「経済効率化」「利益追求」をその原因にあげる人が多いですが、そうならば、なおのこと、注意を払っての作業、製品開発が必要であります。「修理に出すと新製品のサイクルが短く、部品がなく、修理不可能です」といわれた方は多いかと思えます。私も古い電気製品（骨董品的だが）を買った店に持っていき、大事に使っていたものであればいつまでも使いたい一心で修理依頼しますが、「部品の保存期間が過ぎ、修理できません」と言われる。そうした時「何とか採算抜きにして部品を作って見ましょう」といえないのでしょうか。

先日、我が家の水道のレバーが折れて業者に来ていただいた。「もう新しい製品が出て合う部品があるかどうか分かりません」とその場は帰って行きました。数日後、合いそうな部品をいろいろ持ってきて、いろいろ工夫しながら作業をしました。やっと終了してレバーをひねると水が流れ、その時は実にうれしかった。年齢は30歳を少し過ぎ、寡黙な人でしたが、支払の段階で出張料も取らず、単に部品代だけしか受け取りませんでした。このようなことは、本当に珍しい光景となり、「安心して、快適に使っていただくには」との思いがこちらに響き、一心で作業するすばらしさを拝見しました。

この事例は建築分野において、「建物を作る」という点から、大いに参考になります。「安心して住む」ということから「安心・信頼」は本当に重要である。建物を作るときに「魂を入れて、誠心誠意の心が大切である」ことは当然なことです。昨今、言われている「耐震偽装」は確かに利益追及の結果ではあるが、これからも今回の事件を建築教育には戒めとしたいものである。言い古された言葉だが、私たちは生徒に今回の事件を「住んでいる方に安心して快適に過ごしていただき、いつまでもいい建物だと言われるような建築物を提供することが最も大切である」と言い続ける教材と捉えるべきである。

最後になりましたが、今年度の総会、研究協議会静岡大会に際しまして、静岡県はじめ多くの先生方に心より感謝申し上げます。来年度は岩手県盛岡市で開催されますが、事務局も多いに協力して、岩手大会を盛り上げていきたい。多くの東日本の建築科教員が参加し、そこで得た情報を各校で校内へ発信しようではありませんか。

2. 平成17年度 事業報告

1. 総会・研究協議会の実施

期 日：平成17年7月28日(木)～7月29日(金)
会 場：岐阜観光ホテル「十八楼」
〒500-8009 岐阜市湊町10

- 1) 開会式
- 2) 総 会
- 3) 研究協議Ⅰ(分科会)
- 4) 夕食会(教育懇談会)
- 5) 研究協議Ⅱ(研究発表及び分科会報告):製図・計画・構造・施工
- 6) 講 評
- 7) 閉会式
- 8) 研究視察

2. 夏期研究協議会(構造分科会主催)

内 容 木造耐震診断研修会
期 日 平成17年8月1日(月)・2日(火)
会 場 市川工業高等学校
担 当 構造分科会 沢野 茂(葛西工業高等学校)

3. 日影図及び天空図作成講習会

内 容 日影図及び天空図作成講習会
期 日 平成17年8月3日(水)
会 場 (株)週刊住宅新聞社 会議室
担 当 法規小委員会 米原 良慈(小石川工業高等学校)

4. 建築系高校生徒体験実習

内 容 各校の施設設備では実施できない大規模な実習を専門施設を利用して行う。
(安全教育・測量・鉄筋・型枠実習)
期 日 平成17年8月24日(水)～26日(金)
会 場 富士教育訓練センター
担 当 資格取得推進委員会 小沢 宏(蔵前工業高等学校)

5. 理事会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催予定
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催した。
- 3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年7回開催した
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催した。
- 5) 刊行物
 - ①建築教育ニュース2005年号(11月発行)
 - ②会員名簿(7月発行)
 - ③各種参考書

6. コンクール・作品展示等

第24回製図コンクール締切日 平成17年11月7日(月)～14日(月)
第10回CAD作品展 締切日 平成17年11月7日(月)～14日(月)

7. 平成17年度生徒表彰 113校

8. その他 関係諸団体との連絡調整

平成18年 3月 31日

平成17年度 会計決算報告

会長 能 智 功
会計 片 岡 等

下記の通り御報告致します

1. [収入額]

項 目	予算額	決 額	増減額	摘 要
会 費	1,007,500	1,008,500	1,000	155校分(6,500×155校) +個人会員1名(1,000×1名)
雑収入	50,000	50,003	3	全工協助成金、利息
印 税	400,000	307,834	-92,166	基礎問題集、図集、法規学習ノート、建築施工 技術者テキスト
繰越金	80,287	80,287	0	
合 計	1,537,787	1,446,624	-91,163	

2. [支出額]

項 目	予算額	決算額	増減額	摘 要	
1) 事業費	1,170,000	1,111,484	58,516		
総会費	170,000	170,000	0	協議会補助、本部経費等	
資料費	260,000	276,150	-16,150	資料、ニュース印刷費等	
講習会補助	60,000	60,000	0	夏期講習会(構造)補助	
出張補助費	130,000	100,000	30,000	西日本、北海道出張補助等	
分科 会費	印税分配費	90,000	105,334	-15,334	3分科会・1委員会=13,954×4 計画分科会=49,518
分 担 金	460,000	400,000	60,000	4分科会・3委員会=◎80,000×7 法規小委員会=40,000	
2) 運営費	342,500	269,466	73,034		
役員会議費	40,000	0	40,000	常任理事会・主査会等	
通信費	90,000	67,550	22,450	総会通知、ニュース発送等	
全高建協会	77,500	77,500	0	500円×155校分	
雑 費	20,000	5,980	14,020	事務用品代	
事務費	20,000	13,416	6,584	事務局運営費	
名簿費	50,000	50,000	0	名簿作成費	
ホームページ維持費	15,000	15,000	0	プロバイダー等	
賞状発送	30,000	40,020	-10,020	賞状、発送用箱等	
3) 予備費	25,287	0	25,287	資格取得委員分担金	
4) 合 計	1,537,787	1,380,950	156,837		

3. [差引残高] 1,446,624 - 1,380,950 = 65,674

4. [次年度繰越] 65,674

会計監査の結果、収支・帳簿等相違無いことを認めます

平成 18年 3月 31日

会計監査 伊 藤 彰 人
佐々木 隆 弘

3. 平成18年度 事業計画

1. 総会・研究協議会の実施

期 日： 平成18年8月1日（火）～8月2日（水）
会 場： 静岡文化芸術大学
〒430-8533 静岡県浜松市中央2-1-1

- 1) 開会式
- 2) 総 会
- 3) 研究協議Ⅰ（分科会）
- 4) 夕食会（教育懇談会）
- 5) 研究協議Ⅱ（研究発表及び分科会報告）：製図・計画・構造・施工
- 6) 講 評
- 7) 閉会式
- 8) 研究視察

2. 夏期研究協議会（製図分科会主催）

内 容 建築博物館都市つくばを歩く
期 日 平成18年7月25日（火）・26日（水）
会 場 UR都市再生機構 茨城地域支社ほか
担 当 製図分科会 小島 聡（千葉県立東総工業高等学校）

3. 第2回 建築確認申請講習会

内 容 建築確認申請講習会
期 日 平成18年7月31日（月）
会 場 江東区森下文化センター
担 当 法規分科会 米原 良慈（小石川工業高等学校）

4. 建築系高校生徒体験実習

内 容 各校の施設設備では実施できない大規模な実習を専門施設を利用して行う。
（安全教育・測量・鉄筋・型枠実習）
期 日 平成18年8月21日（月）～23日（水）
会 場 富士教育訓練センター
担 当 資格取得推進委員会 白井 尚美（東京都立葛西工業高等学校）

5. 理事会・委員会等の開催

会の構成

- 1) 理 事 会 役員・都道府県理事で総会開催日に年1回開催予定
- 2) 常任理事会 役員・常任理事で年3回開催予定
- 3) 主 査 会 役員のうち会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計で年6回開催予定
- 4) 各種委員会 分科会・委員会の長の召集により開催
- 5) 刊行物
 - ①建築教育ニュース2006年号（11月発行）
 - ②会員名簿（8月発行）
 - ③各種参考書

6. コンクール・作品展示等

第25回製図コンクール締切日 平成18年11月6日（月）～11日（土）
第11回CAD作品展 締切日 平成18年11月6日（月）～11日（土）

7. 平成18年度生徒表彰

申し込み 平成19年1月31日 要綱は建築ニュースに同封

8. その他 関係諸団体との連絡調整

平成18年 8月 1日

平成18年度 会計 予算 (案)

会 長 能 智 功
会 計 事 務 局

1. [収入額]

項 目	予 算 額	摘 要
会費	1,009,500	155校分(6,500×155校)+個人会員2名2,000円
雑収入	50,000	全工協助成金、銀行利息
印税	265,950	基礎問題、図集、法規学習ノート
繰越金	65,674	
合計	1,391,124	

2. [支出額]

項 目	予 算 額	摘 要
1) 事業費	1,070,000	
総会費	170,000	総会補助、協議会補助、本部経費等
資料費	250,000	総会資料、ニュース印刷費等
講習会補助	60,000	夏期研究協議会(製図)
出張補助費	120,000	西日本、北海道出張補助、参与交通費
分科 会費		
印税分配費	110,000	計画・構造・施工・製図
分担金	360,000	構造・計画・製図・施工・法規・各委員会
2) 運営費	282,500	
役員会議費	30,000	常任理事会・主査会等
通信費	70,000	総会通知、ニュース発送通信費等
全高建協会	77,500	500円×155校分
雑費	20,000	事務用品代
事務費	20,000	事務局運営費
名簿費	10,000	名簿作成費
ホームページ維持費	15,000	プロバイダー等
賞状発送	40,000	賞状、発送用箱等
3) 予備費	38,624	慶弔費等
4) 合計	1,391,124	

4. 平成18年度役員名簿

- | | | | |
|----|-----------------------|--|--|
| 1 | 会 長 | 東京都立田無工業高等学校(校長) | 能 智 功 |
| 2 | 副 会 長 | 静岡県立浜松工業高等学校(校長)
岩手県立盛岡工業高等学校(校長)
東京都立墨田工業高等学校
東京都立総合工科高等学校
千葉県立市川工業高等学校 | 平井 重臣
川原 利夫
大久保 健宏
小沢 貞介
菊池 貞介 |
| 3 | 事務局長 | 東京都立田無工業高等学校 | 鈴木 健 |
| 4 | 会 計 | 東京都立田無工業高等学校 | 片岡 等 |
| 5 | 常任理事 | [※会長・副会長・主査・委員長・事務局長・会計は兼任]
市川直啓(校長・名古屋市立工芸)
菅原良一(北海道・美唄工)
富澤宏之(群馬・前橋工)
芳賀勤(埼玉・大宮工定)
岩原義春(東京・関東第一)
榎本吉晃(東京・安田学園)
寒河江峰夫(神奈川・神奈川工)
岩辺 薫(静岡・静岡工)
小澤誠志(東京・蔵前工)
松下信禎(東京・総合工科)
名倉悦男(静岡・浜松工) | 神保信行(校長・市川工)
齊藤延夫(栃木・宇都宮工)
永田 浩(群馬・高崎工)
小松泰山(千葉・市川工)
高野秀章(東京・日工大付東京工)
千葉一雄(東京・東工大附工)
渡辺威知夫(山梨・甲府工定)
外里昌治(岩手・盛岡工)
前田 潔(東京・蔵前工定)
丸山 悟(全高建協・田無工) |
| 6 | 都道県理事 | 北海道 菅原良一(美唄工)
青森 岩城伸行(十和田工)
宮城 西尾正人(古川工)
山形 伊藤秀一(山形工)
栃木 大野 敏(那須清峰高)
埼玉 金子 紀(春日部工)
千葉 小松泰山(千葉・市川工)
神奈川 鷹野正明(向の岡工)
新潟 湯山新一(新潟工)
富山 磯辺 哲(富山工)
福井 廣田喜文(武生工)
愛知 横井孝俊(豊橋工) | 北海道 長島恒介(旭川工)
岩手 外里昌治(盛岡工)
秋田 山崎茂雄(大曲工)
福島 長谷沼徹(郡山北工)
群馬 佐々木正純(桐生工)
茨城 太田康史(下館工)
東京 小澤誠志(蔵前工)
山梨 佐藤 久(富士北稜)
長野 伊藤 満(長野工)
石川 小酒正明(金沢市立工)
静岡 岩辺 薫(静岡工)
岐阜 上林 裕(高山工) |
| 7 | 会計監査 | 東京都立葛西工業高等学校
横浜市立鶴見工業高等学校 | 柳澤 力也
伊藤 彰人 |
| 8 | 分科会委員 | | |
| 1) | 製図分科会：主査・小島 聡(東総工) | | |
| ☆ | 吉城 守(春日部工) | 筒井 斉(神奈川工定) | |
| | 吉野 博行(熊谷工) | 菊池 貞介(市川工) | |
| | 鈴木 浩之(那須清峰高) | 富田 眞理子(総合工科高) | |
| | 笹崎ひろみ(田無工) | 塩澤 泰(関東第一) | |
| | 福島 勝(日工大付東京工) | 橋本 政美(昭和第一学園) | |
| | 森嶋 真一(関東第一) | 櫻井 良明(甲府工) | |
| | 國島かほり(向の岡高) | 田口 学(礒子工) | |
| 2) | 計画分科会：主査・岩上 成輝(川崎総科高) | | |
| ☆ | 三野輪雄大(春日部工) | 大橋 正俊(蔵前工) | |
| | 荒木 宏道(前橋工定) | 富田 欣一郎(藤沢工科高) | |
| | 江口 敏彦(市川工) | 江原 聖直(大宮工) | |
| | 野村 博美(小石川工定) | 新井 澄江(墨田工) | |
| 3) | 法規分科会：主査・米原 良慈(小石川工定) | | |
| ☆ | 根岸 俊行(館林商工) | 武田 明広(市川工) | |
| | 石川 清人(峡南高) | 岩瀬 政利(市川工定) | |

- 4) 構造分科会：主査・沢野 茂 (葛西工)
- | | |
|---------------|---------------|
| ☆榎本 吉晃 (安田学園) | 大久保 健 (墨田工) |
| 青柳 昭 (市川工) | 雨宮 行光 (甲府工) |
| 黒澤 昇 (高崎工定) | 稲垣 弘太郎 (藤沢工科) |
| 小澤 誠志 (蔵前工) | 菅谷 太郎 (川越工) |
| 斉藤 延夫 (宇都宮工) | 菅沼 雄介 (富士北陵高) |
| 鈴木 隆 (墨田工) | 益野 英昌 (仙台第二工) |
| 高橋 裕 (神奈川工) | 星野 志保 (峡南工) |
| 高橋 康代 (小石川工定) | |
- 5) 施工分科会：主査・田辺 登 (昭和第一学園)
- | | |
|----------------|-----------------|
| ☆小嶋 計一 (宇都宮工定) | 丸山 悟 (田無工) |
| 塩山 昇 (大宮工) | 伊藤 彰人 (鶴見工) |
| 権田 幸男 (大宮工) | 平柳 政幸 (日工大付東京工) |
| 高橋 篤史 (安田学園) | 網中 正仁 (館林商工) |
| 峯 孝一 (京葉工) | 寒河江 美和 (新発田南) |
| 飯塚 日登美 (新潟工) | 山口 哲也 (蔵前工) |
| 吉村 公利 (春日部工) | |
- 9 教材委員会：委員長・小沢 宏 (総合工科高)
- | | |
|--------------|---------------|
| ☆小関 茂雄 (茂原工) | 寒河江 峰夫 (神奈川工) |
| 野村 博美 (小石川定) | 榎本 吉晃 (安田学園) |
| 前田 潔 (蔵前工定) | |
- 10 編集委員会：委員長・伊藤 和生 (墨田工定)
- | | |
|--------------|------------|
| ☆遠藤 啓史 (京葉工) | 鈴木 健 (田無工) |
|--------------|------------|
- 11 製図コンクール運営委員会：委員長・塩澤 泰 (関東第一)
- | | |
|---------------|----------------|
| ☆森嶋 真一 (関東第一) | 福島 勝 (日工大付東京工) |
| 櫻井 良明 (甲府工) | 橋本 政美 (昭和第一学園) |
| 吉野 博行 (熊谷工) | 吉城 守 (春日部工) |
| 笹崎 ひろみ (田無工) | 田口 学 (磯子工) |
| 鈴木 浩之 (那須清峰高) | |
- | | | |
|----------------------|---------------|--------------|
| (計画分科会) 荒木 宏道 (前橋工定) | 江原 聖直 (大宮工) | |
| (法規分科会) 武田 明広 (市川工) | 石川 清人 (峡南高) | 岩瀬 政利 (市川工定) |
| (構造分科会) 菅沼 雄介 (甲府工) | 高橋 裕 (神奈川工) | 小澤 誠志 (蔵前工) |
| (施工分科会) 高橋 篤史 (安田学園) | 寒河江 美和 (新発田南) | 吉村 公利 (春日部工) |
- 12 資格取得推進委員会：委員長・鈴木 隆 (墨田工)
- | | |
|---------------|-------------|
| ☆五十嵐 忠彦 (今市工) | 石井 直樹 (高崎工) |
| 泉 隆一 (春日部工) | 遠藤 啓史 (京葉工) |
| 小沢 宏 (総合工科高) | 白井 尚美 (葛西工) |
| 丸山 悟 (田無工) | |
- 13 広報委員会：委員長・榎本 吉晃 (安田学園)
- | | |
|-------------|-------------|
| ☆関戸 亮 (墨田工) | 大久保 健 (墨田工) |
|-------------|-------------|
- 14 顧問及び参与
- 1) 顧問 北島敬己 (第16代会長) 原田 昭 (第18代会長) 岡田義治 (元委員長)
佐藤清親 (第20代会長)
 - 2) 参与 土田裕康 (元副会長) 松井貞二 (前副会長) 大間俊彦 (元編集委員長)

5. 平成18年度 第56回東日本建築教育研究会

静岡県立浜松工業高等学校 名 倉 悦 男

平成18年度 第56回東日本建築教育研究会総会・研究協議会（静岡大会）が、平成18年8月1日（火）～2日（水）、静岡文化芸術大学を会場に開催され、東日本地区1都1道21県から建築系教員167名と県内外の来賓及び企業29名が一堂に会し、日頃の研究成果、貴重な体験発表及び各種情報交換ができました。

工業教育が抱えている課題や問題点を明確にしながら、「意欲を高める建築教育のあり方」という共通テーマで、これからの建築教育に向けた熱心な研究協議がなされました。

第1日目は、午前中に本部事務局主査会及び都道県理事会が行われ、午後の開会式では静岡県教育委員会をはじめ多くのご来賓よりご挨拶をいただくと共に、大会実行委員長より来賓紹介が行われました。その後の総会では、事業・会計決算・会計監査・会則改正・役員改選の報告があり、事業計画・予算案が承認されましたが、会則改正によって、今年度より法規委員会が法規分科会としての活動を展開できることになりました。その後、教材・編集・製図コンクール運営・資格取得推進・広報の各委員会からの活動報告と諸連絡で閉式し、前述した共通テーマのもとに製図・計画・構造・施工の4分科会に移って研究発表・ディスカッションが熱心に行われました。また、第1日目の締めとして文部科学省教科調査官の池守先生より中央教育審議会教育課程部会の最新情報をお聞きすることができました。

2日目は、最初に次期開催県となる岩手県を代表して石井先生（大船渡工高）、さらに開催県の静岡県を代表して五十嵐先生（修善寺工高）の2先生より研究発表、続いて各分科会主査より前日に行われた4分科会の報告が行われ、静岡県教育委員会より講評をいただきました。その後、静岡文化芸術大学大学院の川口教授による講演、閉会式を行い静岡大会を盛会の内に終了することができました。

静岡大会を総括すると、進路意識・興味関心・理解力・創造力等、多様化する生徒の資質をいかに把握し、意欲を高めていくかについて、様々な視点で検討する絶好の機会となり、たいへん有意義な大会であったと思われまます。

大会運営は、静岡県内建築系学科6校の31名による実行委員会を組織し、浜松工高を事務局校として活動してきました。できる限り経費を押さえた簡素な運営を目指し、案内表示等は、すべて手作りとししました。

大会当日は、酷暑の心配をよそにおだやかな天候に恵まれる中、盛会裏に終えることができました。不行き届きの点多々あったことと思いますが、紙面をお借りしてお詫び申し上げます。来年度の岩手大会が、さらに充実した大会となるように祈念すると共に、静岡大会に対しまして、ご支援ご協力をいただいた皆様方に深くお礼を申し上げます。

第56回東日本建築教育研究会総会・研究協議会静岡大会要項

共通テーマ 「意欲を高める建築教育のあり方」

期 日 平成18年8月1日(火)～8月2日(水)

会 場 静岡文化芸術大学

《第1日目 8月1日(火)》

都道府県理事会受付 9:30～10:20

都道府県理事会 10:30～12:00

来賓・会員受付 12:00～12:50

13:00～13:50

1. 開会式

(1) 開式の辞 静岡大会実行副委員長 佐藤 義雄

(2) 挨拶 静岡大会実行委員長 平井 重臣

東日本建築教育研究会会長 能智 功

(3) 来賓祝辞 浜松市建築住宅部長 青木 一幸

静岡県教育委員会 藤井 茂男

西日本工高建築連盟 塚本 良典

(4) 来賓紹介 財団法人建設業振興基金建築試験部部長 八木 敬造

静岡文化芸術大学常務理事 鈴木 善彦

社団法人静岡県建設業協会会長 伊藤 孝

社団法人静岡県建築士会会長 大澤 稔

社団法人静岡県建築設計事務所協会副会長 和田 中生

(5) 閉式の辞 静岡大会副実行委員長 佐藤 義雄

13:55～15:10

2. 総会

(1) 開会の辞

(2) 議長選出

(3) 議 事

1) 平成17年度事業報告

5) 役員改選

2) 平成17年度会計決算報告

6) 平成18年度事業計画

3) 会計監査報告

7) 平成18年度予算案

4) 会則改正

(4) 各分科会・委員会報告

(5) その他連絡

(6) 閉会の辞

3. 研究協議Ⅰ(分科会)

15:20～16:30

共通のテーマ『意欲を高める建築教育のあり方』

製図分科会 「建築図面の読み方・描き方」

計画分科会 「建築計画におけるフィールドワークについての事例

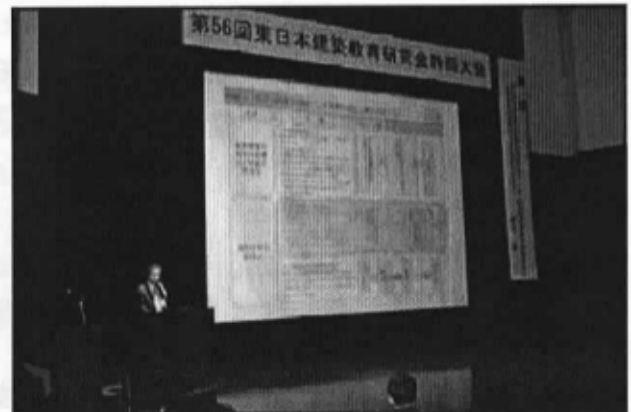
構造分科会 「理解を深める建築構造設計 -補助教材づくり-

施工分科会 「建築施工の視覚的補助教材 -木造編-

4. 講 話		16:40~17:10
	国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教科調査官	池守 滋
5. 教育懇談会		18:30~
《第2日目 8月2日(水)》		
1. 研究協議Ⅱ(全体会)		9:00~10:40
(1) 研究発表		9:00~10:00
	I 『 地域に根ざした特色ある学科づくりを目指して 』 岩手県立大船渡工業高等学校	石井 栄治
	II 『 ものづくり「創造・夢工房」の建設 』 静岡県立修善寺工業高等学校	五十嵐信彦
(2) 分科会報告		10:10~10:40
2. 講 評		10:50~11:00
3. 講 演		11:10~12:10
	『 街づくりと建築 』 静岡文化芸術大学大学院教授 デザイン研究科長	川口 宗敏
4. 諸連絡・昼食		12:20~13:00
5. 閉会式		13:10~13:40
(1) 開式の辞	東海地区建築教育研究会会長	佐藤 芳満
(2) 会長挨拶	東日本建築教育研究会会長	能智 功
(3) 次期開催県代表挨拶	岩手県立盛岡工業高等学校長	川原 利夫
(4) 閉式の辞	静岡県大会実行委員長	平井 重臣
6. 諸連絡		13:40~13:50
7. 研究視察	静岡文化芸術大学施設見学	14:00~15:20



開会式



講 話

6. 夏期教育研究会に参加して

石川県金沢市立工業高等学校 中 田 智 晴

平成18年7月25日から26日の2日間にわたりつくば市で夏期教育研究会が実施され、東日本各地1都13県から27名の先生方が参加されました。UR都市再生機構茨城地域支社をスタートし『建築博物館都市つくばを歩く』と言う内容でつくばの街並みをウォッチングするという例年とは違った趣向で大変有意義な研修会でした。

日程は下記の通りです。

日 程

第1日目	受付	13:00～13:30
	つくば開発の概要説明	13:30～14:30
	地域冷暖房システム	14:30～15:15
	葛城地区見学	15:30～16:45
	質疑応答 解散	16:45～17:00
	教育懇談会	17:30～19:30
第2日目	受付	9:00～ 9:20
	建築研究所見学	10:00～11:30
	町並みウォッチング	11:30～16:30
	昼食（メモリーズ）	

1日目は、独立行政法人都市再生機構茨城地域支社ニュータウン事業部T×事業計画チームの関根様によりつくば開発の概要を、都市・自然・知を融合しつくばスタイルをつくり出そうとしているという説明を受けたのち、1年前に完成したT×沿線で町づくりが進められている葛城地区を見学しました。

葛城地区は国の機関や研究機関につとめる研究者の社宅や集合住宅が中心に建築されているそうです。その先には地域冷暖房システムを見学し、概要、設備、供給先の説明を受けた後、施設も見学しました。

また、『つくばフェスタ』というイベントの中で建設された鶴太郎ハウスや現在は移転しわずかに痕跡を残す自動車研修所高速周回道路、つくば万博の跡地を見学しました。日が沈んでからは教育懇談会会場から南第3駐車場のライトアップを見学しました。



2日目は、独立行政法人建築研究所を訪れ、建築研究所全体の説明を受けた後、「ユニバーサル実習棟」「通風実験棟」を見学しました。

その後、つくば街なみウォッチング『建築博物館都市つくばをあるく』と題し様々な建築物をNPO法人つくば建築研究会の若槻さん、柳田さんのガイドで見学しました。

また、ランチもすごく興味深い建築物の中で自然をいっぱい取り込んだお料理をいただき大変満足でした。

『建築博物館都市つくば』の名のごとく様々な建築物が点在し『研究学園都市つくば』というイメージを一掃させられ、都市全体を博物館と表現された思いに共感する見学会でした。本当に盛りだくさんの見学先があり時間があっという間に過ぎてしまい、最後の見学先「カスミつくばセンター」が時間の都合で見学できなくてとても残念でした。



2日間の研修会も大変有意義なものでした。建築の楽しさを感じ始めた頃、大学のゼミの仲間と色々な建築物をみて歩くのが本当に刺激的でした。今年の研修会はそのころの刺激を再び感じることでできる内容でした。教員になって10年、生徒たちに建築を学ぶ楽しさを伝えられているのだろうか？自分自身に問いただすきっかけになりました。この見学会を通してよみがえった思いを生徒に還元できるよう時間を見つけてウォッチングに出かけたいと思っています。

最後に今回の研修会にあたり、会場の準備、資料の手配にご苦労された製図分科会の先生方に心から感謝申し上げますとともに、研修会に参加された先生方の益々のご活躍を祈念致しまして参加の感想といたします。



7. 計画分科会報告

川崎市立川崎総合科学高等学校 岩上成輝

計画分科会委員会では、昨年度より「建築計画におけるフィールドワーク」について、授業実践報告や調査研究などの活動をして参りました。以下に活動内容を報告いたします。

平成17年度 第3回 平成17年10月18日（小石川工高）

岐阜大会研究協議会の報告及び反省事項を協議しました。また、アンケート結果から今後の分科会活動の内容を検討しました。アンケート結果からも計画分科会への活動内容の要望が多岐にわたっており、分科会委員の意見交換の中で建築物や町並み等の調査研究（フィールドワーク）の指導方法について、2年程度の期限を決めて活動していくことになりました。

平成17年度 第4回 平成17年12月8日（小石川工高）

旧富岡製糸場建築物調査セミナー参加の報告

11月12日（土）～13日（日）にかけて群馬県富岡市にある旧富岡製糸場に米原（小石川工）と岩上（川崎総合科学）が参加し産業遺産としての富岡製糸場の講義と文化財の実測調査に参加してきました。今年度の分科会活動の内容にも沿っていたため有意義なセミナーでした。

分科会では平成19年度の夏季研究協議会を旧富岡製糸場の見学を交え建築物の調査研究をテーマに実施計画を進めていくことになりました。

平成17年度 第5回 平成18年3月7日（小石川工高）

静岡大会に向けて研究発表及び協議会の実施について検討しました。静岡大会では分科会委員の中からフィールドワークについての授業実践例及び旧富岡製糸場建築物調査セミナー参加の報告を行い、意見交換を行うことで決まりました。

平成18年度 第1回 平成18年4月25日（墨田工高）

静岡大会に向けての分科会協議会の運営について打合せを行いました。フィールドワークについての授業実践例の中間報告と内容について意見交換を行いました。

計画分科会の平成17年度活動報告、会計報告を行いました。

平成18年度 第2回 平成18年7月5日（墨田工高）

静岡大会にむけての分科会協議会の運営および役割分担について最終打合せおよび資料の確認を行いました。

第56回 静岡大会 平成18年8月1日～2日（静岡県浜松市）

研究協議会は分科会委員の米原（小石川工）、江原（大宮工）、岩上（川崎総合

科学)より活動報告および建築計画におけるフィールドワークの実践報告が行われました。

まず米原委員からは、昨年11月に行われました「旧富岡製糸場における建造物調査ワークショップ」の講演会と実測調査実習の報告がありました。

富岡製糸場は、明治5年に官営工場として設立。三井・原合名会社、片倉工業(株)を経て昭和62年3月まで創業され、平成17年10月からは富岡市が管理しています。報告では、明治5年の建設当時から、ほぼそのままの状態で良好に保存されている製糸場内の建造物、繰糸場、東・西繭倉庫、事務棟、ブリューナ館等の主要建物や横須賀造船所で造られた国産の鉄水槽などがスライドで紹介され、構造については「木骨レンガ造」という日本では珍しい構造になっている点や、鉄水槽、開口部について説明がされました。

富岡製糸場は、平成18年7月に繰糸所や東西の繭倉庫などの建造物等が国重要文化財に指定され、世界遺産登録へ向け群馬県で取組んでいるところです。計画分科会でも来年(成19年度)の夏季研究協議会で富岡製糸場の見学会及び講演会を富岡市で行う予定です。

江原委員からは、「現代建築への招待」と題して、都内や首都圏の建築物について、見学や写真撮影を通して建築を初めて学ぶ生徒に建築の面白さを体感させるフィールドワークの実践報告がありました。見学等を通じて建築全般に関する興味・関心を深めるとともに建築設計や建築評価へつなげることを目的とし、事前指導では目的地の紹介プリントの作成、建築物の概要や見所を紹介するなど漠然と見学に行くのではなく綿密に目的の建築物について指導され、実際に現地での見学では事前の資料をもとにポイントの解説、建築物の使われ方の観察、周辺環境への配慮や写真撮影時のマナーにいたるまできめ細かい指導が報告されました。また、見学場所についての事例をスライドで紹介されました。

岩上からは、2年生の授業で行っている「我がまちを語る」というテーマで、生徒の身近な地域のまち並みや建築物について見学させる内容の実践報告をしました。この課題は建築や都市に興味を持たせること、すなわち「見る」から「観る」へ意識を生徒につけてあげることが目標としています。事前指導ではインターネットを利用し、できるだけ多くの資料を調べ実際の地域の見学を各自で行い、写真を用いた「まち」説明を生徒の視点からレポートさせます。

他にも協議会に出席できなかった委員の実践例を資料として提示しました。委員からの報告後、参加された先生方から見学に関するものや、生徒への興味付けについての質問がありディスカッションを行いました。また、参加した先生方からの実践例も紹介していただきました。

計画分科会では、昨年度と今年度の2年間にわたりフィールドワークを建築計画への興味付けの一つと考え、授業の中でどのように取り入れ指導していけばいいのかなどを研究していきたいと思っております。会員の先生方におかれましても日頃の実践例でご紹介いただけるものがございましたら、計画分科会(岩上)までご連絡いただければ幸いです。

8. 法規分科会 活動報告

東京都立小石川工業高等学校 米 原 良 慈

法規分科会では、会員参加型講習会「第2回 建築確認申請講習会」などの法規関連の情報提供と共に内部委員のさらなる法規理解を深めるための「研究調査による研鑽」などを両輪とし併行して取り組んでいます。

以下、既済の活動内容及び今後の活動予定を報告します。

<活動報告> (昨年度、岐阜大会以降～本年度、静岡大会まで)

I. 委員会議事について

- (1) 第16回 法規小委員会・・・(05/08/29 東京都立小石川工業高等学校にて)
 - ・日影図および天空図作図講習会の反省(アンケート結果に基づき)
 - ・ワークノート作成作業進捗確認
 - ・4観点別評価法作成作業進捗確認
 - ・18年版過去問題集作成の作業工程および内容の確認
 - ・18年度実施講習会「第2回建築確認申請講習会」実施について検討
 - ・19年度以降の実施予定講習会計画について
 - 「第3回建築確認申請講習会」検討
 - 「夏期研究協議会 建築法令講習会」検討
- (2) 第17回 法規小委員会・・・(05/10/19 東京都立小石川工業高等学校にて)
 - ・ワークノート作成作業進捗確認
 - ・4観点別評価法作成作業進捗確認
 - ・18年版過去問題集作成の作業工程および内容の確認
 - ・18年度実施講習会「第2回建築確認申請講習会」実施について
 - ・19年度以降の実施予定講習会計画について
 - 「第3回建築確認申請講習会」検討
 - 「夏期研究協議会 建築法令講習会」検討
- (3) 第18回 法規小委員会・・・(05/12/07 東京都立小石川工業高等学校にて)
 - ・ワークノート作成作業進捗確認
 - ・4観点別評価法作成作業進捗確認
 - ・18年版過去問題集作成の作業工程および内容の確認
 - ・18年度実施講習会「第2回建築確認申請講習会」実施について
 - ・19年度以降の実施予定講習会計画について
 - 「第3回建築確認申請講習会」検討
 - 「夏期研究協議会 建築法令講習会」検討
- (4) 第19回 法規小委員会・・・(06/02/13 東京都立小石川工業高等学校にて))
 - ・ワークノート作成作業進捗確認
 - ・4観点別評価法作成作業進捗確認
 - ・18年版過去問題集作成の作業工程および内容の確認
 - ・18年度実施講習会「第2回建築確認申請講習会」実施について
 - ・19年度以降の実施予定講習会計画について
 - 「第3回建築確認申請講習会」検討
 - 「夏期研究協議会 建築法令講習会」検討
 - ・次年度委員確認

(5) 第20回 法規小委員会・・・(06/05/24 東京都立小石川工業高等学校にて)

- ・ワークノート作成作業進捗確認
- ・4観点別評価法作成作業進捗確認
- ・18年版過去問題集作成の作業工程および内容の確認
- ・18年度実施講習会「第2回建築確認申請講習会」実施について
- ・19年度以降の実施予定講習会計画について
- 「第3回建築確認申請講習会」検討
- 「夏期研究協議会 建築法令講習会」検討

(6) 第21回 法規小委員会・・・(06/07/04 東京都立墨田工業高等学校・江東区森下文化センターにて)

- ・ワークノート作成作業進捗確認
- ・4観点別評価法作成作業進捗確認
- ・18年度実施講習会「第2回建築確認申請講習会」実施について
- ・19年度以降の実施予定講習会計画について
- 「第3回建築確認申請講習会」検討
- 「夏期研究協議会 建築法令講習会」検討

(7) 研究研修会「第2回 建築確認申請講習会」

(06/07/31 東京都江東区森下センターにて)

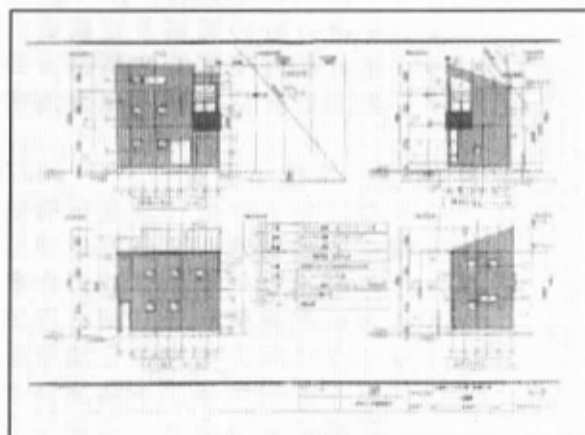
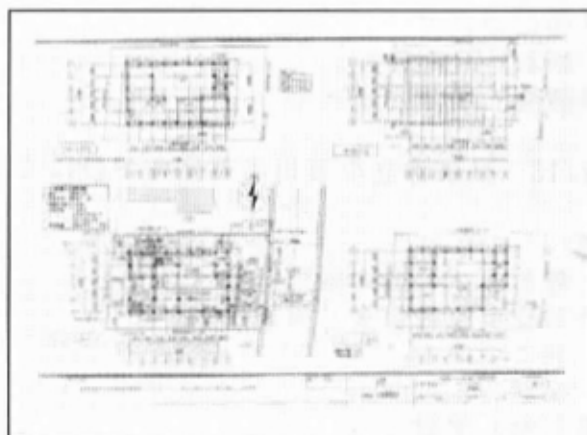
以上を委員会議事報告とします。

Ⅱ. 研究研修会「第2回 建築確認申請講習会」の実施報告

・7/31(日)東京都江東区森下文化センターに於いて、「第2回 建築確認申請講習会」を主催しました。講師には前回同様、社団法人千葉県建築設計事務所協会副会長 荻原幸雄氏を招聘し、参加者17名で実施しました。

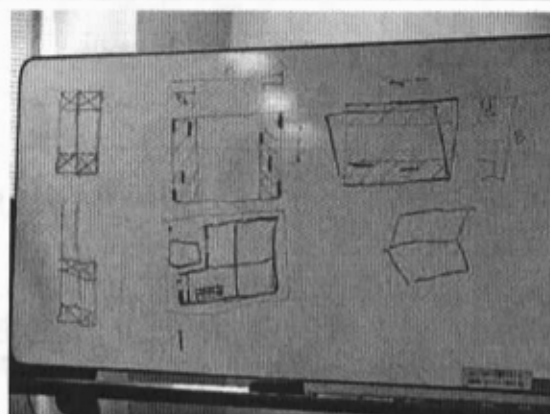
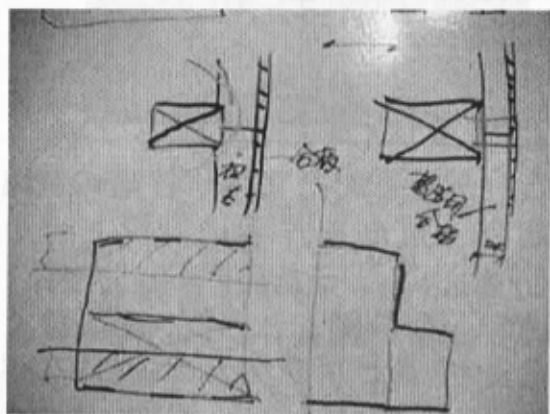
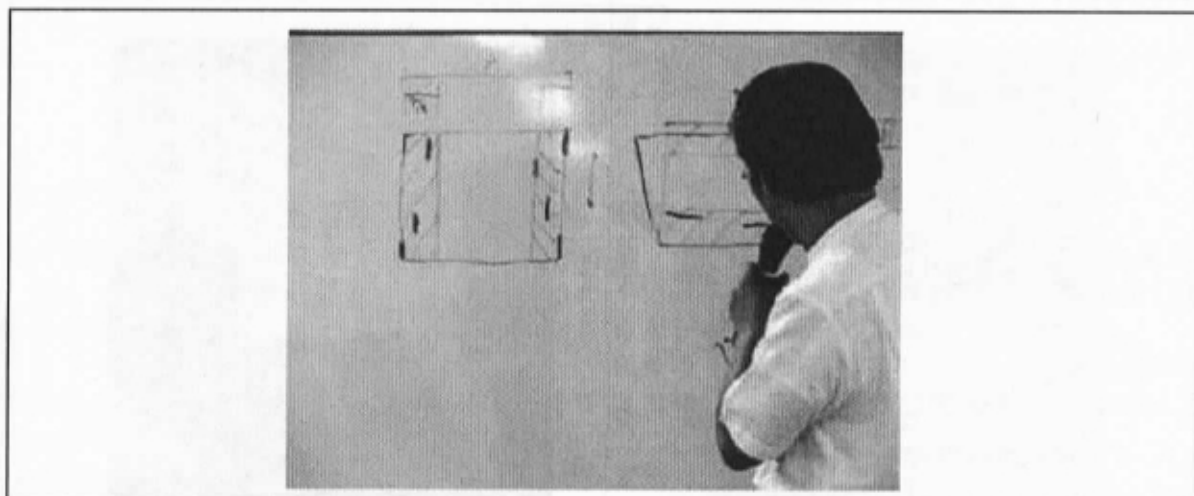
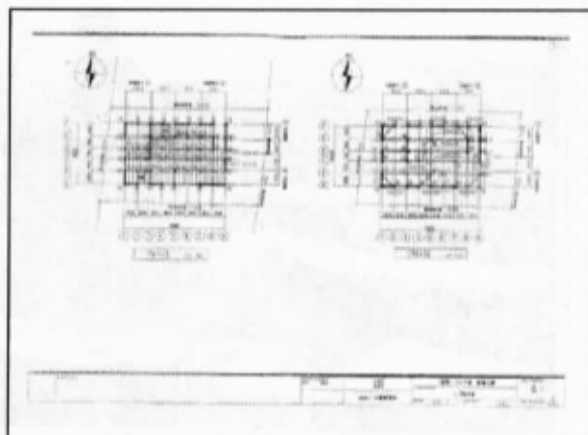
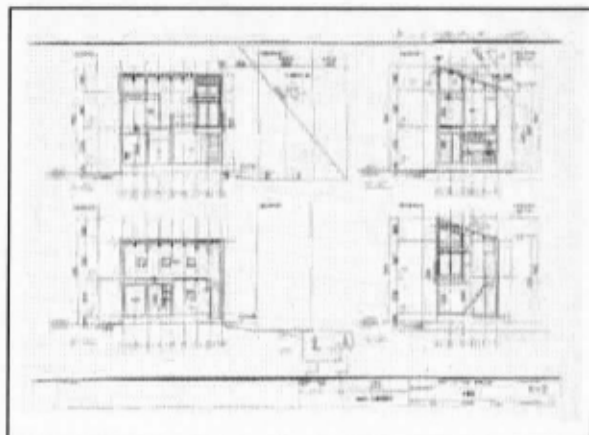
本講習会は、平素実務に携わることができない私ども教員も建築法規については、他の科目と異なり実務としての知識が必要となります。当該講習会も第2回をむかえ、今回は「確認申請の概要と面積算定」をおこないましたが、今回は1歩踏み込んで時流とも関連させ「木造建築の壁量計算」を実務的見地で捉えてみました。

今回使用した資料の竣工確認図面のポイントがいくつかあります。一つ目は、かなばかり図においても判断できるように非常に高性能である「内外断熱工法」を採用していました。壁内の通気層を介して夏季は換気扇で排出、冬季はロフトに溜まった暖気をダクトで床下暖房に利用するものです。



二つ目は当該物件が「地盤改良」をおこなっておりました。また、床下換気孔の代替として基礎パッキンを用いるとともに通常、床下の換気およびメンテナンスの際に設ける基礎内側の開口も設けずすべて基礎ばりの認識で各通りを通していました。これは、荻原氏の設計基本にある「建築物の生命線は構造である」との考えによるものであり、構造についても今回は、リフォームに有利な在来と耐震に有利な2×4を併用して構造用合板の使用により「ゆれ」のないものとなっていました。

さらに、構造の基本である上下階の壁のバランス重視（荷重バランス）していることが充分にうかがい知るものでした。



●講師：荻原氏より、まずは「構造バランス」の説明がなされた。
→上下階の壁位置を揃えることの重要性

<参加者からのアンケート結果>については、以下原文通りである。

1、講習会内容について

- ・普通（98%）
- ・易しかった（2%）

その理由・・・授業の中で指導しているが、実例からご指導いただいて有意義でした。
おおよそ知っている内容でした。

2、講師の対応

- ・良かった（70%）
- ・普通（30%）

その理由・・・欠陥住宅の話は、為になった。
丁寧に説明していただき、わかりやすかった。

3、今回の講習会について

- ・良かった（90%）
- ・普通（10%）

その理由・・・資料をたくさんいただけて、実例から良い勉強になりました。
実際の建物なのでよく理解できた。ありがとうございました。
資料だけでも十分活用できるものとなり、良い内容だったと思います。

4、今後の法規関係講習会について（希望があれば）

- ・基本的な内容よりも今回のように「実務的」な内容の講習会を希望したいです。

Ⅲ. 建築士過去問題集の精選作業について

*「研究調査による研鑽」として「18年版 建築法規の過去問題集」精選作業を継続しておこないました。今回は、前述の「第2回建築確認申請講習会」参加者に講習会資料の一部としてCD-ROMにおさめデジタルデータで頒布をしました。

どうぞ、授業で活用して下さい。また、来年度頒布用の「19年版 建築法規の過去問題集」精選作業も今夏季休業日中に委員で手分けをして取り組んでおります。来年の完成にご期待下さい。

（来年度も講習会参加者に資料の一部として頒布予定です！！）

Ⅳ. ワークノート作成について（詳細：HP掲載済）

*平素の授業で生徒自身がポイント整理ができ、そのままノートとして使える“ワークノート”の作成を行っております。

今回、集団規定の一部の未完成部分を除き、ひと通りの素案としておりますので、ぜひ、ご一見の上ご意見等をお聞かせ下さい。

Ⅴ. 4観点別評価 試作版について（詳細：HP掲載済）

*文科省推奨の「4観点別評価」に関して現在、「建築法規」分野の素案をお示ししておりますので、ぜひ、ご一見の上ご意見等をお聞かせ下さい。

Ⅵ. 法改正の動向について

*昨年の「耐震偽装」問題に端を発し、今回のキーワードは「建築物の安全性に対する国民の信頼回復」で、再発の防止と法令遵守の徹底である。

ここでは、既に6月21日公布済（特に建築基準法・建築士法関係）のものと業界雑誌などでは様々な憶測がとび交っているが現時点（6月26日）で、国レベルで素案段階のものに分けて以下のとおり記す。

[本ニュース編集による原稿の切の関係上、「建築士制度の見直し」については、後掲のとおり、あくまでも、社整審資料(18.6.26)であり、予定では8月末に最終答申を大臣手交となっている。よって本ニュースが発行される秋頃、臨時国会の正式な国会審議となる模様か遅くとも来年の通常国会の審議事項となっているであろうと思われる。]

また、その動向を国および都市部（例として東京都）に分けて主だったものを概要列記する。

●「国（関係所管：国土交通省）の動向」（平成18年6月21日公布）

1、建築確認・検査の厳格化

(1) 一定の高さ以上等の建築物（注1）について

指定期間による構造計算審査の義務付け・・・知事指定による指定構造計算適合性判定機関の新設（専門家による審査：ピアチェック）

（注1）木造：高さ13m超又は軒の高さ9m超等、RC造：高さ20m超等

・指定機関は審査に要する費用を建築主事又は指定確認検査機関に請求

→確認手数料の引上げが必要

(2) 建築確認の審査方法及び中間検査、完了検査の検査方法の指針の策定及び公表→指針に基づく厳格な審査、検査の実施

(3) 建築確認の審査期間の延長・・・21日→35日（最大70日まで延長可）

(4) 3階建以上の共同住宅について中間検査を法律で義務付け

2、指定確認検査機関の業務の適正化

(1) 指定要件の強化（損害賠償能力、公正中立要件、人員体制等）

(2) 指定取消し、建築基準適合判定資格者の登録取消し等の後、指定を受けられない期間の延長：2年間→5年間

(3) 指定に当たって業務区域内の特定行政庁の意見を聴取

(4) 特定行政庁による指導監督の強化

・特定行政庁に立入検査権限を付与

・指定確認検査機関に不正行為があった場合、特定行政庁からの報告に基づき、指定権者による業務停止命令等の実施

・確認審査報告書等の作成及び当該報告書等の特定行政庁への提出を義務付け

3、図書保存の義務付け等

(1) 特定行政庁に対して、図書の保存を義務付け

(2) 指定確認検査機関及び建築士事務所の図書保存期間の延長（省令事項）

4、建築士等の業務の適正化及び罰則の強化

(1) 建築士等の業務の適正化

- ・ 建築士が構造計算によって建築物の安全性を確かめた場合におけるその旨の証明書交付を義務付け
- ・ 建築士による名義貸し、違反行為の指示、信用失墜行為の禁止を法定し、これらの違反者に対する処分を強化
- ・ 設計・工事監理の下請け契約締結時に書面の交付を義務付け
- ・ 建築士事務所の開設者による名義貸しの禁止

(2) 建築士等に対する罰則の大幅な強化

違反内容	現行	改正案
耐震基準など重大な 実体違反（建築基準法）	罰則 50万円	懲役3年／罰金300万円 （法人の場合罰金1億円）
建築確認の 手続違反（建築基準法）	罰則 50万円	懲役1年／罰金100万円
建築士・建築士事務所の 名義貸し、建築士による 構造安全性の虚偽証明 （建築士法）	なし	懲役1年／罰金100万円
不動産取引の際に重要事項 の不実告知等（宅建業法）	懲役1年／罰金50万円	懲役2年／罰金300万円 （法人の場合罰金1億円）

(3) 確認申請書等に担当した全ての建築士の氏名等の記載を義務付け（省令事項）

(4) 建築士の免許取消し後、免許を与えない期間の延長：2年間→5年間

（建築基準法違反により罰金刑を受けた者等については更なる延長可能）

(5) 建築士事務所の登録取消し後、登録を受け付けない期間の延長

2年間→5年間

5、建築士、建築士事務所及び指定確認検査機関の情報開示

(1) 建築士及び建築士事務所に関する情報開示の徹底

- ・ 国土交通大臣、都道府県知事からの処分を受けた建築士の氏名及び建築士事務所の名称等を公表
- ・ 建築士事務所に所属する全ての建築士の氏名、業務実績等を毎年度知事に報告、都道府県知事によるこれらに係る書類の閲覧を義務付け

(2) 指定確認検査機関に関する情報開示の徹底

- ・ 指定権者からの監督命令を受けた指定確認検査機関の名称等を公表
- ・ 業務実績、財務状況、損害賠償能力に関する情報等に係る書類の閲覧を義務付け

6、住宅の売主等の瑕疵担保責任の履行に関する情報開示

- (1) 宅建業者に対して、契約締結前に保険加入の有無等について相手方に説明をすることを義務付け
- (2) 宅建業者、一戸建ての住宅等の工事請負業者に対して、契約締結時に加入している保険等の内容を記載した書面を買主に交付することを義務付け

* 建築士制度の見直しの方向性について (素案段階) 社整審資料 (18.6.26) より

1、専門分野別の建築士制度の導入について

- (1) 一級建築士及び二級建築士の業務範囲を見直すとともに建築士の資格付与要件を厳しくする方向で検討 <建築士のレベルアップ>
 - ・一級建築士でなければ設計等を行えない建築物を構造適合性判定等が必要なものに限定する。(ex、RC造の場合高さ20m超のもの)
 - ・既存資格者の新資格への移行については、講習の受講、修了考査の実施等により、所要の能力を有することを確認した上で新たな免許を付与することとする。
 - ・受験資格(学歴要件、実務経験)や試験内容の見直し等について(以下の2、に後掲)
- (2) 専門資格を創設し、新たな建築士の指示の下で、構造計算や構造設計図書の作成、設備機器の負荷計算や設備設計図書の作成を行えるようにする方向で検討。
 - ・専門資格者についても設計図書等に記名押印させる。また、違反行為等は懲戒処分の対象とする。

2、建築士の資質、能力の維持向上について

- (1) 資格付与の要件を引き上げる方向で検討
 - ・一級建築士の受験資格は、四年制大学において建築に関して大臣が定める科目を修めて卒業した者とする。二級建築士からのステップアップルートは引き続き規定。
 - ・受験資格とされていた実務経験を免許登録要件としての建築士事務所における業務補助等と実務修習機関における実務修習の修了に再構成する。また、業務補助等の内容を設計・工事監理業務の補助に限定し、管理建築士にこれを証明させることとする。
 - ・試験内容については、新たな業務範囲に応じて、構造設計、設備設計に関する知識・技能の有無についても適確に問うものとする。
- (2) 業に従事する建築士(=事務所に所属する建築士)に対して一定期間ごとの講習を義務付ける方向で検討。
 - ・受講歴については、建築士事務所の年次報告、事務所の登録更新時等に確認する。
- (3) 消費者による建築士の選択・確認が可能となるよう建築士名簿を開示する

とともに免許証（顔写真入り）を業務実施時に提示させる方向で検討。

- ・ 氏名、登録番号、登録日、処分歴、講習の受講歴等を閲覧対象とする。
- ・ 業務の依頼者への業務内容説明時、工事監理業務実施時等に免許証を提示する。

3、建築士事務所の業務の適正化について

(1) 管理建築士の要件を規定するとともに開設者は管理建築士が技術的な観点から述べた意見を尊重しなければならないとする方向で検討。

- ・ 一定の実務経験、講習の受講歴を管理建築士の要件とする。
- ・ 管理建築士の業務として所属建築士に対する指導監督のほか納品する設計図書のチェックを行わせること等を位置付ける。

(2) 元請け下請けの関係の適正化を図るための規定を整備する方向で検討。

- ・ 受託業務の丸投げ、資格者事務所以外への再委託等を禁止する等。

4、工事監理業務の適正化

(1) 工事監理業務を受託する際、管理建築士に対して依頼主に業務内容を証明させるとともに実施する業務内容を書面で確認させる方向で検討。

- ・ 宅地建物取引業法における重要事項説明と同様に、事前の説明義務を課す規定を整備するとともに、実施すべき工事監理業務を契約内容として明確化させる。

(2) 工事施工から独立して工事監理が適正に実施されるための規定を整備することを検討。

(3) 工事監理の実効性を高めるため、建築基準法に基づく着工届けの際に、工事監理業務を受託した旨を証する書面を添付させる方向で検討。(省令事項)

5、業務報酬基準の見直しについて

(1) 現行の報酬基準（告示1206号）の基本的な考え方を維持することとし、実態調査を行った上で所要の見直しを行う。

- ・ 現行の報酬基準は、標準的な業務内容とこれに必要な業務量（人・日数）を示しており、これを踏襲することとする。意匠（計画）、構造、設備の分野ごとに業務量を示す方向で検討。

6、団体による自律的な監督体制の強化について

(1) 資格者団体と事業者団体を規定し、あわせて建築士及び管理建築士に対する講習の実施等を団体の業務として規定する方向で検討。

- ・ 団体への強制加入については、一の団体に強制加入させる必要性はないとの意見や憲法で保障する結社の自由等を制限する合理的な理由が不十分ではないかとの指摘もあることから、さらに慎重な検討が必要。

(2) 業務の適正化を図るため事業者団体に自律的に監督を行わせる方向で検討。

- ・ 事業者団体に会員名簿の閲覧義務を課す。また、団体以外の者には団体名称

の使用を制限するとともに会員以外の事業者に会員であることの表示を制限して、会員事業者と会員外事業者との差別化を図る。

・事業者団体に会員への調査権を付与することとし、会員に応答義務を課すこととする。

(3) 資格者及び事務所の登録と登録簿の閲覧事務を指定登録法人に行わせる方向で検討。

・一級建築士及び専門資格者については、国土交通大臣の指定、二級建築士、木造建築士及び建築士事務所等については都道府県知事の指定。

●「都市部（例として東京都）の動向」（東京都資料に基づく）

(1)、東京都総合設計許可要綱の一部改正（施行日：平成18年4月28日）

・改正理由として、「景観面、環境面等での地域実態や都市再生を進める上で建築物等の高さ等の適切な誘導が重要である。また、わが国の近代化の過程で首都東京の象徴性を意図してつくられた建築物はその周辺を含め今日も風格ある景観を形成している。これらの建築物を中心とした眺望を保全し良好な都市景観を創造していくためには、当該建築物の周辺で計画される建築物の規模、色彩等の適切な誘導が重要である」

・東京都総合設計許可に係る建築物の高さ誘導指針

・眺望の保全に関する景観誘導指針

⇒昨年施行された「景観法」にも関係し、「都市景観の形成に配慮」することが主な内容である。

VII. 今後の活動予定

* 今後の活動・取り組みとして以下のものを行います。

1、「第3回 建築確認申請講習会」（実施）

実施日：平成19年7月30日（月） 東京都江東区森下文化センターにて
内 容：集団規定および実務によるスライド講義ほか

2、「19年版 建築法規の過去問題集」精選作業による問題及び解説集作成（CD-ROM）→（1、の講習会参加者へ頒布致します）

3、「建築法規ワークノート」作成作業中→次年度、岩手大会にて「第1版」提示

4、文科省推奨「4観点別評価」の「建築法規」分野の素案完成→意見集約中

5、次年度総会（岩手大会）にて、建築関連法令等の改正情報提供

7、「夏期研究協議会 建築法令講習会（仮称）」

実施日：平成20年 夏季休業日中 東京都内にて

趣 旨：昨今の急変する建築関係法令の正確な理解を深めるとともに、効果的な授業展開を行うため。

8、その他

*最後に、今年度の静岡大会におきまして、法規小委員会から「法規分科会」への移行が承認されました。分科会としてより一層「教科研究」に励みたいと考えております。是非会員皆様方のご指導・ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

9. 製図分科会報告

千葉県立東総工業高等学校 小島 聡

昨年度の製図分科会では、「福祉」の視点からの製図教育を分科会テーマとしましたが、その後の研究活動の中から、バリアフリーの意識が強くなりすぎると病院施設のように施設、設備にたよる図面や規格化された図面となり、オリジナリティーに欠ける計画となる。そのことよりも、「基礎的な製図力」や「美しい図面」さらには、デザインや発想を伝える図面を描くための表現力はどのようにして育てるのか？ との話題となり、教科書の図例をどのように指導しているかの実態調査を兼ねて、教科書の表記や表現等についてのアンケートを実施することとなった。以下に、静岡大会での様子を示すと共に、今後は、製図例を活用した授業案の研究へと進む予定である。会員の皆様より、授業案の提供を頂ければ幸いです。今後とも製図分科会の活動に御理解とご支援を頂ければと思います。

第56回 東日本建築教育研究会静岡大会 製図分科会研究協議 報告

平成18年7月25日(火)

製図分科会では、「建築図面の読み方、描き方」～教科書の製図例をよみこなそう！～をテーマに日頃、指導の際に感じている教科書の疑問点等について協議した。

事前に各先生方にアンケートで質問を求め、それらまとめたものを、実教出版社協力の下、回答例を作成するかたちで分科会に臨んだ。

参加者数52名であった。



回収されたアンケートの内容は大きく分けて「教科書本文や記号」「線種の違い」「何を伝えたいのか」「CADデータの図面」「開口部の表現」「関連図面を読む」「縮尺に応じた表現」「部材寸法の表記」「立面図の表現について」「製図例5について」等で、その多くは「教科書にこうあるべきとあるのに作図例がそうになっていない」為、一貫した指導が行えないというものが大半を占めた。中には教科書作成上のミス（製図例5）のようなものもあったが、アンケートの集計内容を説明し、それぞれについて解説を行った。

「教科書本文や記号」については、線種や記号の記載内容については、JISを基本としているが、建築の図面は住宅金融公庫の基準に沿っている場合や、表示記号については慣用的表現として用いられる物等があり、これら表現の詳細は「建築学会発刊コンパクト建築設計資料集成」等を参照していただきたい。

「線種の違い」については、原則として製図に用いる線種についての規則を定めているが、隣り合う線との間隔がせまい場合等、表現を優先して線種を変更す

る場合もある。

また、この時の判断基準は隣り合う2本の線が重なり合っただけ1本に見えてしまう場合等であり、適宜判断していただきたい。製図例1-5は、壁の厚み全体を表現した場合のかき方であり、材料の存在は表現しているが厚みの表現にまで及んではない、指導の際に材料の厚みに着目して指導されるのであれば極太線になるであろう。ただし、表現された2本の線が重なり太い1本に見えてしまうことは製図上好ましくない。原則として定めたものがあったとしても、その状況に応じて変更する必要がある、それこそが指導すべき内容であろう。

「何を伝えたいのか」は、扉については、1/100で表現した場合はそこに扉の存在を明示できればよく、1/50で表現した場合にはさらに取り付け位置も表現することが可能である。製図例1-7は、土台回りの詳細図であるために戸袋等の表現は簡略化している。製図例2-3の断面図では、高さに関する事項を理解させたいという趣旨から戸やサッシを省略しているとも読みとれる。その図を読む者に何を伝えたいのかを優先的に考え、表現技法のひとつとして「省略・簡略化（目立たなくする）」を施すこともある。

「CADデータの図面」では、「CADデータの図面」とは、教科書に使用されている製図例は全てがCADを利用して描かれているためにそのCADの性質上発生してしまった、間違いへの指摘であり、そのほとんどが指摘のとおり修正する予定であることが出版社担当者より説明があった。（製図例1-6、1-7は、その他の図面も含めて、修正の予定）

「開口部の表現」は、2つの図面間に生じる差を指摘した内容であったが、製図例2-1は、「下枠がある」「廊下の仕上げとその他の室の仕上げに違いがある」等を表現している描き方であり、製図例3-1はバリアフリーを意識した表現である。

「関連図面を読む」とは、授業でかかせる図面に、部分によっては寸法が記入されていない場合はどのように指導したらよいかとの質問であったが、他の図面との関連性について指導したい。図面は相互に関連し合っただけ読むものであることの指導が必要である。

その他、寸法の表記の規則性については、『(厚さ)を小、(幅)を大』としている。一般的な「小(厚さ)×大(幅)」で教科書の編集は統一されている。また、何を伝えたいかにより、表現にアレンジを加わる事も大切であり指導のポイントとしたい。特に、GL線を太くすることは、表現上のテクニックとして踏襲されていることであり、JIS etcがあるが、ビジュアル・デザイン・プレゼンテーション的な指導の方向を強く打ち出すというのであればJIS etcの縛りからめけていくことも当然起こり得る事も指導したい。

等、事前アンケートに対する回答を中心にポイントごとにまとめた資料をパワーポイントで説明を行い、参加者も熱心にメモを取る姿が見られたが、約1時間という短時間では、質問や意見をもとに協議することができなかったのは残念であった。

記録：鈴木浩之（那須青峰高校）

1. はじめに

今までの見学会では、建設途中の1つの建築物であったり、ニュータウン建設途中での工事見学等、人々の暮らしが見えない器の機能のみに着目した見学会を多く実施してきました。今回は（NPO）つくば建築研究会の御協力のもと、設計者の手から離れた建物が、地域の景色として街並みの景観形成にどのように影響しているか。また、地域の人々に愛される建築とは、などの視点から「建築博物館都市つくばを歩く」と題して計画しました。

2. 場 所 茨城県つくば市竹園 1-2-1
UR 都市再生機構茨城地域支社 他

3. 参加人数 27名（1都13県）

4. 内 容

第1日目（7月25日） 各施設等へは貸し切りバスで移動

13:00~13:30 受付（都市再生機構茨城地域支社 1階）

13:30~14:30 つくば開発の概要説明（都市再生機構茨城地域支社内）

(<http://www.ur-net.go.jp/ibaraki/work/sc.html>)

- ・ 開発概要
- ・ 土地活用
- ・ 事業経緯
- ・ 住宅供給計画
- ・ 商業地区
- ・ 保全、販売等
- ・ 質疑応答



14:30~15:15 地域冷暖房システム見学（筑波都市整備（株））

(http://www.tsud.co.jp/new_hp/energy/energy.html)

- ・ 地域冷暖房システム概要
- ・ 計画概要
- ・ 施設説明
- ・ 供給先
- ・ 施設見学（共同溝・炉筒煙管ボイラ・二重効用吸収冷凍機設備）
- ・ 質疑応答



15:30~16:45 葛城地区見学

(<http://www.ur-net.go.jp/ibaraki/work/tx.html>)

- ・ 開発概要
- ・ 研究学園駅周辺住宅地見学（住宅街内を徒歩にて見学）
- ・ 旧自動車研究所（JARI）高速周回路跡見学（車内より）

- ・鶴太郎ハウス見学
- ・つくば万博跡地（現在工業団地）見学
- ・質疑応答はその都度実施
16：45～17：00 質疑応答（都市再生機構茨城地域支社内）
17：30～19：30 教育懇談会

第2日目（7月26日）各施設等へは貸し切りバスで移動

9：30～11：30

- ・独立行政法人 建築研究所見学 (<http://www.kenken.go.jp/>)
展示館でVTRによる建築研究所の全体説明と坊垣和明博士（首席研究員）からご挨拶があり、その後「ユニバーサルデザイン実験棟」、「通風実験棟」の見学を行いました。

展示館内の展示物を見る時間がなく、残念でした。研究内容を紹介したパネルや模型の展示がありました。

「ユニバーサルデザイン実験棟」

(<http://www.kenken.go.jp/japanese/research/prd/Nunota/panf.pdf>)は、研究所の中では一番新しい施設であり、ユニバーサルデザインやバリアフリーなど住環境に関する研究がされていました。浴室や便所等の空間や開口部、階段などの実験設備があり、発信器を使った避難シミュレーションについても説明していただきました。特に巨大な勾配可変スロープ（最大傾斜角 50°）を使用した、階段の勾配実験は参加された先生方の目を引いていました。また、布田主任研究員から説明のあった、デジタル版人体動作テンプレートドロ잉システム（通称「デ・ジ・典」）がフリーウェアとしてダウンロード出来ます。お試しください。（<http://www.kenken.go.jp/japanese/research/prd/Nunota/nunota.html>）

「通風実験棟」

(<http://www.kenken.go.jp/japanese/information/introduction/facilities/shosai/14.html>)は、住宅の通風に関する研究がされていました。建物全体が風洞実験室になっており、実物 大モデルを使用した実験棟はここだけだそうです。通風現象実験の一部を再現していただきました。



11：30～17：00

つくば街並みウォッチング (<http://tsukuba-arch.org/>)

長梅雨で天候が心配されましたが、この日は久しぶりの晴天になり、徒歩での見学が中心の街並みウォッチングは概ね予定通りに進みました。

NPO法人つくば建築研究会の若柳さん、柳田さんにガイドしていただき、以下の建築物を見学しました。（ ）内は設計者です。

- ・筑波大学D棟（鶴澤隆）

- ・セキショウつくばアネックス・オフィス（栗生明）
- 昼食：メモリーズ／アートギャラリー併設レストラン
- ・つくば市立東小学校（藤本昌也）
- ・つくば市立谷田部中学校（船越徹）
- ・つくば市立東幼稚園（三上清一）
- ・赤塚公園前の家（伊坂重春）
- ・つくば国際会議場「エポカルつくば」（板倉建築研究所）
- ・つくば市立竹園西小学校（原広司）
- ・つくばカピオ（谷口吉生）
- ・南3駐車場（伊東豊雄）
- ・つくばセンタービル（磯崎新）
- ・つくば文化会館アルス（石本建築事務所）
- ・カスミつくばセンター（デザイン：マイケルグレイブス）



残念ながら以下の建築物は時間の関係上、車中より見学しました。

- 筑波大学体芸棟（横文彦）、
- 松見公園展望塔（菊竹清訓）、
- セキショウつくばオフィス（栗生明）、
- 県営小野崎アパート（内井昭蔵）、
- 洞峰公園体育館（大高正人）



天候も良く徒歩での移動が中心ということもあり、最後の方では参加者された先生方にも若干の疲れが見えましたが、つくば市内にある有名建築家の建物を熱心に見学し、カメラに納められていました。ガイドして下さったつくば建築研究会の若柳さん、柳田さんの詳しい説明もあり、非常に参考になったという声を多くいただきました。



5. おわりに

日頃から熱心に教育活動を実践している多くの先生方と、貴重な時間を有意義な場所で過ごすことができたことを心から感謝します。至らない点が多々あり、先生方にはご迷惑をお掛け致しました。反省致します。今回の研究協議会が、参加された先生方の交流の場としてだけでなく、見学を通じて得たものが、それぞれの学校に戻ってからの教育活動の一助になれば幸いです。

最後に、論文掲載の許諾を頂いた筑波大学大学院大村教授はじめ、都市機構茨城地域支社の関根様、筑波都市整備(株)鈴木様、ならびに建築研究所の坊垣博士、つくば建築研究会の若柳様の丁寧なご説明に心より感謝申し上げます。

製図分科会主査 小島 聡

10. 構造分科会報告

東京都立葛西工業高等学校 沢野 茂

17年度夏期研究協議会は、千葉県立市川工業高校を会場に構造分科会の担当で「木造耐震診断研修会」を実施し、多くの先生方の参加をいただきました。おかげさまで、それ以降、関東エリアを中心に複数の学校で「木造耐震」の取り組みが行われるようになってきております。今後、この取り組みが東日本の各地の各学校で展開され、より広がっていくことを念願している次第です。

さて、18年度の分科会の取り組みは、昨年の岐阜大会で実施した「建築構造設計」アンケート調査をもとに、「建築構造設計」補助教材づくりの活動が中心となりました。

まだまだ、十分な内容とはなっておりませんが、静岡大会以降も引き続き取り組み、より充実した内容に仕上げたいと思っております。

岐阜大会以降の取り組みを、ここにご報告させていただきます。

第1回分科会

1. 日時：平成17年9月30日（金）14：00～
2. 会場：都立蔵前工業高校
3. 内容：①「建築構造設計」の補助教材づくりの検討
②「木造耐震診断」の推進

岐阜大会でのアンケート調査の分析を行い、「建築構造設計」の補助教材づくりをどう進めていくかを検討した。また、夏期研究協議会で取り組んだ「木造耐震診断」を今後どう推進していくかを検討した。

第2回分科会

1. 日時：平成17年12月16日（木）14：00～
2. 会場：都立蔵前工業高校
3. 内容：①「建築構造設計」の補助教材づくりの検討
②分科会研修会の検討
③静岡大会に向けての取り組み

前回に引き続き、「建築構造設計」補助教材づくりの取り組みについて検討し、分科会として、「構造設計ノート」的な内容の冊子を作成していく方向でまとまった。

また、1年に一度実施している「分科会研修会」の検討を行い、東池袋再開発の工事現場の見学会を年度内に実施することになった。

さらに、静岡大会に向けては、「建築構造設計」補助教材づくりの取り組みを発表し、質疑応答の中で、意見を求めながら次のステップに進むことにした。

第3回分科会

1. 日時：平成18年1月13日（金）14：00～
2. 会場：私立安田学園高校
3. 内容：①「建築構造設計」の補助教材づくりの検討
②分科会研修会の検討

「建築構造設計」補助教材づくりについては、片持ちばり・単純ばり・ラーメンの中から各自好きなものを選び、反力計算を行い次回までの宿題とした。

分科会の研修会は、「東池袋再開発事業」の現場見学会を3月7日（火）に実施することになった。

第4回分科会および研修会

1. 日時：平成18年3月7日（火）13：00～
2. 会場：日建学院本部
3. 内容：①「建築構造設計」の補助教材づくりの検討
②「木造耐震診断」の推進
③分科会研修会（現場見学会）

「建築構造設計」補助教材づくりについては、持ち寄った宿題を元に検討したが、形式もばらばらでアプローチの仕方なども各人各様のため、統一した問題で再度作成し、次回に持ち寄ることになった。

「木造耐震診断」の推進については、昨年の夏期研究協議会で使用したフリーソフトが使用できなくなったことで、新たなソフトが必要となったため、その選定から考える必要があり、情報収集をしながら検討していくことになった。

分科会研修会は、「東池袋再開発事業」の現場見学会を実施した。当日は、分科会委員のほか、数名の先生方の参加もいただき、合わせて22名の参加で実施した。住宅棟を中心に、劇場なども完備した商業施設との複合施設となっており、また、地下鉄へのアクセスもすぐという立地条件のよい場所にある施設である。施工法なども各種特許をとった施工法を導入しており、工期短縮や工事費の節約にもつながっている。新工法については、普段の学校現場での生活では、なかなか情報が得られないことなので、定期的にこうした現場見学会を実施することは、有意義なことだと思う。



住宅棟の外観



住宅棟の屋上

第5回分科会

1. 日時：平成18年5月19日（金）14：00～
2. 会場：私立安田学園高校
3. 内容：①「建築構造設計」の補助教材づくりの検討
②静岡大会の分科会内容の検討

「建築構造設計」の補助教材づくりの検討では、持ち寄った例題をさらに検討し、使う言葉や表現方法、作図の描き方などの点にも配慮して、最終段階の宿題として、片持ちばりと単純ばりに限定して、反力から応力の解法までを作成して、次回持ち寄ることになった。

静岡大会の分科会については、内容・役割分担・進行などについて検討した。

第6回分科会

1. 日時：平成18年7月7日（金）14：00～
2. 会場：都立蔵前工業高校
3. 内容：①「建築構造設計」の補助教材づくりの検討
②静岡大会の分科会内容の検討
③静岡大会以降の取り組みについて

「建築構造設計」の補助教材づくりの検討では、宿題の片持ちばり2題・単純ばり2題の反力から応力までの解法をチェックし、文言や表示方法などの校正を行った。

また、今回の静岡大会では、作成した補助教材をCDに焼き付けて全員に配布することになった。

静岡大会以降の活動としては、引き続き「建築構造設計」の補助教材づくりに取り組んでいくほか、「木造耐震診断」の推進にも取り組んでいくことになった。

第56回静岡大会

1. 日時：平成18年8月1日（火）～2日（水） 13：00開会
2. 会場：静岡文化芸術大学
3. 全体テーマ：『意欲を高める建築教育のあり方』
4. 分科会テーマ：「理解を深める建築構造設計—補助教材づくり—」
5. 分科会内容
①開会の辞・②主査挨拶・③発表・④質疑応答・⑤閉会の辞

大会の分科会では「理解を深める建築構造設計—補助教材づくり—」と題して分科会委員の榎本吉晃（安田学園高校）による発表が行われた。構造設計の授業を展開するなかで、数学に対する苦手意識を有している生徒が存在していること、基礎的な計算力・思考力の低下があり、従来通りの授業では対応が難しい場面があるという現況認識から、理解しやすい教材とはどんなものなのかを、例題及び解法を提示して考えた。

提示された例題は構造設計の基本となると考えられる単純梁における集中荷重として、教科書にそった記述を利用しながら3種類の解き方を提示した。

解き方を教える過程では、反力の計算の時、その方向をどう仮定するか。必ず正の方向

なのか、直感で方向づけるのか、こだわらないのか等、教員による手法の違いがみられ、応力計算・応力図の作成についても、方程式をたてる解き方、図式的にパターン化する解き方等、複数の解き方が紹介された。

参加者からは図式的・直感的な解法だけでは複数の加重が掛かる構造物や、部材数が多い構造物の構造計算に対応できない。1種類の解法だけでなく、複数の解法を教授する必要があるのではないか。という意見が出された。また、力の不可視性が理解の妨げになっている大きな要因であるとして、モーメントの作用を可視化する教材の紹介がなされた。一方で、理解出来ていたはずのことが長期休業を挟むと忘れてしまうといった学力定着が現況における問題として出された。

本分科会を通して、分かりやすい解法というもの一つではないということ、力の作用を視覚化できる教材の有用性を論議できたことは、今後の構造部会の検討課題に指針を与えるものである。



榎本委員の発表の様子



質疑応答の様子

「木造耐震診断」の取り組み—紹介—

8月23日(水)、都立葛西工業高校で「木造住宅耐震診断・夏の公開セミナー」を実施しました。江戸川区の後援、(社)東京都建築士事務所協会江戸川支部の協賛をいただき、江戸川区民を対象に行われ、約80名の参加がありました。

全体講演会では、

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. 「産・官・学共同による社会貢献活動の意義」 | 学校長 |
| 2. 「江戸川区の耐震化の現状と取り組み」 | 江戸川区住宅課長 |
| 3. 「木造耐震診断とその補強について」 | 八島信良講師 |
| 4. 「葛西工業高校の木造耐震診断の今後の取り組み」 | 構造分科会主査 |

上記の内容で行い、その後は、『木造住宅耐震診断チェックコーナー』・『耐震相談コーナー』・『耐震工法・装置の展示コーナー』の三つのブースを設けて、それぞれ実施しまし

た。『木造住宅耐震診断チェックコーナー』では、区民の方が持ち寄った自宅図面をもとにパソコンを使った簡易耐震診断を、本校の生徒および日本大学の学生さんに補助してもらいながら行いました。午前午後合わせて14名の耐震診断を行い、参加者達は、それぞれ生徒の質問に答えながら真剣に取り組んでいました。「倒壊の恐れがある」との診断結果が多く出て、「専門家に相談して、自宅の調査をしてもらう」と話していた方もいらっしゃいました。

また、『耐震相談コーナー』では、建築士事務所協会江戸川支部の方々に区民の耐震改修等の相談に乗って頂き、『耐震工法・装置の展示コーナー』では、実際の現物やパネル展示を行いました。

今回の取り組みで感じたことがいくつかありました。ひとつは、生徒達に取り組んだことが、社会貢献につながり役に立っているということを生徒自ら感じ取ることができたことです。二つ目には、こうした活動の積み重ねが、地域の防災意識の向上に少しずつつながっていくということです。こうした活動が1校2校にとどまらず、より広い地域で多くの学校に取り組んでもらえたら、本研究会の大きな活動の一つになると感じております。



NHK「おはよう日本」の中継
(当日の朝7時15分)



全体講演会



耐震診断チェックコーナー



耐震工法・装置の展示

11. 施工分科会報告

昭和第一学園高等学校 田 辺 登

本年度の研究課題は、視覚的補助教材パート4として、木造住宅編を行った。この補助教材研究は、表1のように4年目となる。建築施工の広い分野において、また現場体験の少ない現状として、授業として生徒に興味をもたせ分かりやすく内容を伝える方法としては、まだまだ難しい面が多く確立していない。従って、あえて本課題を研究題材とさせていただきます。

平成年度	研究内容	発表大会	発表日
15	鉄筋コンクリート工事躯体工事	山梨大会	7月31日
16	同 仕上工事	群馬大会	7月26日
17	同 土工事	岐阜大会	7月28日
18	木造住宅 解体～基礎	静岡大会	8月01日

表1 過去4年間の施工分科会研究内容（視覚的補助教材）

昨年まで関わってきた木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会は、各都県から2名を選任していただき16人体制が整った。また、昨年度の実行委員経験者も半数以上とメンバーが揃ったので、施工委員会から独立して実行できた。今年から、北海道、東北、関東、北信越、東海の全ブロックがブロック大会を実施して、全国大会にのぞむことになった。このことは、全ブロックでブロック大会を実施して、名実ともに実力ナンバーワンの代表による全国大会の実施を訴えてきた施工委員会にとって、嬉しい限りである。

この報告は、施工分科会の研究報告とともに、他に報告の機会がない高校生ものづくりコンテスト関東大会結果も併せてさせていただく。

1、年間活動

平成18年5月16日 第1回施工委員会（会場：安田学園高等学校）

『内容』・研究課題と範囲の決定、個人の役割分担

7月07日 第2回施工委員会（会場：安田学園高等学校）

『内容』・研究資料確認と整理、各役割の進捗確認

7月24日 第3回施工委員会（会場：安田学園高等学校）

『内容』・研究内容のまとめ、静岡大会への資料発送と準備

8月01日 東日本建築教育研究会静岡大会

施工分科会にて研究発表

2、施工分科会の研究

本年度の研究目的は、今までの継承であるが、①建築施工の授業における図の板書の効率化、②建築現場の内容を分かりやすく伝えることによる生徒の興味と理解力の向上とした。

課題は、前述のように『視覚的補助教材パート4 木造住宅編』である。内容は、現存する建築物を解体し、同敷地に改築として建築物を建て替える工事を、完成まで資料収集したものである。しかし、この全工程をまとめて発表となると、かなりの時間を要する。

従って今回は、解体から新建築物の完成までの写真を、各パーツで2～3枚程度をダイジェストで流し、施工の詳細は、分割して発表することにした。

まず今年は、既存建築物解体、整地、地鎮祭、水盛遣り方、地業、基礎（べた基礎）の各工程とした。以下に各工程の部分的な発表写真を載せる。

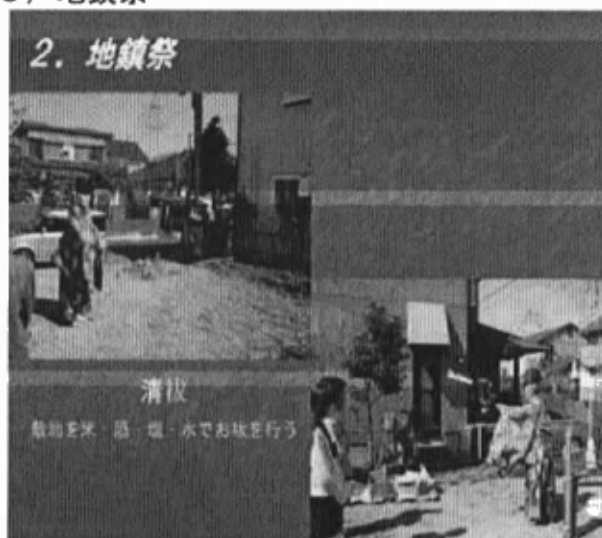
1) 既存建築物の解体



2) 整地



3) 地鎮祭



4) 水盛遣り方



5) 地業



6) 基礎(べた基礎)



3、木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会について

本年の第6回大会の課題は、昨年同様に小屋組であるが、大会は下記のようなものである。

1) 大会運営

大会名：第6回木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会

主催：全国工業高等学校長協会関東支部

東日本建築教育研究会関東ブロック

木材加工部門高校生ものづくりコンテスト関東大会実行委員会

実施日：平成18年7月26日（水）

会場：日本工業大学

参加者：46名（25校・1都7県）

2) 結果

第1位 森田 小百合 東京都立工芸高校インテリア科3年

第2位 荒井 俊也 群馬県立前橋工業高校 建築科1年

第3位 岡部 真悟 私立昭和第一学園高校 建築科3年

以上である。森田さんは関東代表として全国大会出場、全国大会の会場となる埼玉県で、熊谷工高の八木清太郎君、大宮工高の榎本一仁君も出場する。

次の写真は、大会の競技風景と、審査風景である。



競技風景



審査風景

4、まとめ

施工分科会研究の『視覚的補助教材パート4 木造住宅編』は内容も良く、静岡大会施工分科会の発表における評価も高かった。アンケートによっても、授業に十分に利用できることがあった。特に今回は、部分的であるが動画も取り入れた。この内容はCDにまとめ、施工分科会の発表会場に来ていただいた方々に無料配布した。

木材加工部門高校生ものづくりコンテストの大会は、嬉しいことに、全国9ブロック全てにおいて、ブロック大会を開き、そのナンバーワンを代表として全国大会に参加させることになった。輪番制の代表と違い、真の全国大会になる。

現在、各ブロック大会をまとめて結果報告する機会は、全くない。せめて、東日本の5ブロックだけでも、何らかの形でまとめて報告できる機会があれば考える。

12. 製図コンクール運営委員会

(第24回全国高校生建築製図コンクール・第10回全国高校生建築CAD作品展審査結果報告)

関東第一高等学校 塩 澤 泰

第24回全国高校生建築製図コンクールおよび第10回全国高校生建築CAD作品展には、会員校および、会員校以外の諸先生方のご協力を得て、優秀な作品を多数応募いただき、ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。今後とも、諸先生方の絶大なるご協力、ご声援をお願い申し上げます。

[I] 応募状況

(1) 応募校数 (製図コンクールとCAD作品展の合計)

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
H16	H17	H16	H17	H16	H17	H16	H17	H16	H17	H16	H17	H16	H17
75校	79校	70校	75校	5校	4校	63校	65校	5校	4校	7校	10校	0校	0校

(2) 応募作品数

課題名	加盟校別	回数	学校数・作品数	全日制・作品数	定時制・作品数
課題1	加盟校	23回	53校 140点	51校 135点	2校 5点
		24回	47校 126点	46校 123点	1校 3点
	加盟校以外	23回	4校 12点	4校 12点	0校 0点
		24回	6校 17点	6校 17点	0校 0点
課題2	加盟校	23回	34校 77点	34校 77点	0校 0点
		24回	31校 81点	30校 79点	1校 2点
	加盟校以外	23回	3校 9点	3校 9点	0校 0点
		24回	5校 12点	5校 12点	0校 0点
課題3	加盟校	23回	41校 99点	38校 95点	3校 4点
		24回	45校 100点	41校 93点	4校 7点
	加盟校以外	23回	5校 12点	5校 12点	0校 0点
		24回	6校 12点	7校 12点	0校 0点
課題4	加盟校	23回	17校 39点	17校 39点	0校 0点
		24回	8校 43点	8校 43点	0校 0点
	加盟校以外	23回	5校 12点	5校 12点	0校 0点
		24回	6校 15点	6校 15点	0校 0点
CAD作品	加盟校	9回	4校 12点	4校 12点	0校 0点
		10回	10校 27点	10校 27点	0校 0点
	加盟校以外	9回	2校 5点	2校 5点	0校 0点
		10回	4校 11点	4校 11点	0校 0点
応募校計		H16	417点 (加盟校 367点・加盟校以外 50点)		
		H17	444点 (加盟校 377点・加盟校以外 67点)		

(3) 校内作品審査数の総計

		課題 1	課題 2	課題 3	課題 4		CAD製図
加盟校	23回	1916点	916点	820点	365点	9回	—
	24回	1513点	676点	651点	177点	10回	27点
加盟校以外	23回	161点	142点	76点	63点	9回	—
	24回	185点	123点	88点	126点	10回	11点
応募校計	23回	2077点	1058点	896点	428点	9回	—
	24回	1698点	799点	739点	303点	10回	38点

[Ⅱ] 入賞者一覧

課題 1 (軒先マワリ詳細図)		
賞	学 校 名	学科・学年
金賞	群馬県立高崎工業高等学校	建築科 1年
銀賞 1	長野県飯田長姫高等学校	建築科 1年
銀賞 2	岐阜県立中津川工業高等学校	建設工学科 1年
銅賞 1	名古屋市立工芸高等学校	建築システム科 1年
銅賞 2	松山聖陵高等学校	建築科 1年
銅賞 3	長野県飯田長姫高等学校	建築科 1年
銅賞 4	群馬県立高崎工業高等学校	建築科 1年
銅賞 5	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 1年
銅賞 6	愛知県立豊橋工業高等学校	建築・土木科 1年
入選 1	長野県上田千曲工業高等学校	建築科 1年
入選 2	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築科 1年
入選 3	岐阜県立大垣工業高等学校	建設工学科 1年
奨励賞 1	東京都立小石川工業高等学校 (定)	建築科 2年

課題 2 (木造平家建専用住宅)		
賞	学 校 名	学科・学年
金賞	長野県飯田長姫高等学校	建築科 2年
銀賞 1	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築科 2年
銀賞 2	愛知県立半田工業高等学校	建設科 2年
銅賞 1	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科 2年
銅賞 2	栃木県立宇都宮工業高等学校	建築科 2年
銅賞 3	愛媛県立松山工業高等学校	建築科 2年
銅賞 4	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 2年
銅賞 5	愛知県立半田工業高等学校	建築科 2年
銅賞 6	愛知県立半田工業高等学校	建築科 2年
銅賞 7	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 2年
入選 1	山梨県立富士北稜高等学校	建築デザイン 2年
入選 2	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 2年
入選 3	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科 2年
入選 4	私立安田学園高等学校	建築科 2年
入選 5	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 3年
入選 6	私立昭和第一高等学校	建築科 2年
入選 7	岩手県立久慈工業高等学校	建築科 2年
奨励賞 1	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科 3年

課題3 (木造2階建専用住宅)		
賞	学校名	学科・学年
金賞	私立名古屋工業高等学校	建築科3年
銀賞1	東京都立蔵前工業高等学校	建築科3年
銀賞2	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科3年
銅賞1	群馬県立前橋工業高等学校(定)	建築科4年
銅賞2	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年
銅賞3	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科3年
銅賞4	昭和第一学園高等学校	建築科3年
銅賞5	私立名古屋工業高等学校	建築科3年
銅賞6	愛知県立半田工業高等学校	建築科3年
銅賞7	松山聖陵高等学校	建築科2年
入選1	松山聖陵高等学校	建築科2年
入選2	関市立関商工高等学校	建築科3年
入選3	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年
入選4	愛知県立碧南工業高等学校	建築科3年
入選5	岐阜県立岐南工業高等学校	建築科3年
入選6	栃木県立小山北桜工業高等学校	建築システム科3年
奨励賞1	東京都立小石川工業高等学校(定)	建築科3年
奨励賞2	名古屋市立工芸高等学校	建築システム科2年

課題4 (CAD製図)		
賞	学校名	学科・学年
金賞	該当者なし	
銀賞1	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科3年
銀賞2	千葉県立市川工業高等学校	建築科3年
銀賞3	千葉県立市川工業高等学校	建築科2年
銅賞1	松山聖陵高等学校	建築科3年
銅賞2	松山聖陵高等学校	建築科3年
銅賞3	愛知県立豊橋工業高等学校	建築科3年
銅賞4	松山聖陵高等学校	建築科3年
銅賞5	愛知県立愛知工業高等学校	建築科3年
銅賞6	広島県立宮島工業高等学校	建築科3年
入選1	山梨県立甲府工業高等学校	建築科2年
入選2	埼玉県立熊谷工業高等学校	建築科3年
入選3	神奈川県立神奈川工業高等学校	建設科2年
入選4	広島県立宮島工業高等学校	建築科3年
入選5	愛媛県立松山工業高等学校	建築科1年
入選6	広島県立宮島工業高等学校	建築科3年

CAD作品展		
1等(インフォマティクス賞)	千葉県立市川工業高等学校	建築科3年
2等(ヒューマン賞)	松山聖陵高等学校	建築科3年
3等(アイディア賞)	愛媛県立松山工業高等学校	建築科2年

【Ⅲ】審査報告

- (1) 審査は、各課題ごとに各分科会からの先生方でグループを組み選出を行い、最終的に委員全員が投票を行い、厳正かつ公平に実施しました。審査講評は、各グループの先生方でまとめました。
- (2) CAD作品展を除き課題1から課題4まで各課題の複写図を用意しました。
課題1は、コピーの複写図。コピーの濃淡によって複写図の善し悪しがないように、濃淡は自動に設定しました。
課題2・3は、青焼きの複写図。青焼きの速度によって複写図の善し悪しがないように、速度は自動に設定しました。
課題4は、課題1と同様にコピーの複写図。
CAD作品展はカラーコピー機がないため原図で審査しました。
- (3) 課題1から課題4まで全複写図の表題欄をカットしました。CAD作品展の原図は表題欄を伏せました。
課題1から課題4まで金・銀・銅に該当する作品は最後に原図にて確認しました。
- (4) 入賞のポイント
 - 1) 課題1
参考図を製図の基本に従って忠実に模写するものです。線の太さの区別・文字の大きさ・文字の形・部材の配置などの優劣が入賞か否かのポイントになりました。
 - 2) 課題2
参考図を模写する部分（平面図）と、設計要素と表現力を必要とする部分（配置図、立面図、断面図）の内容です。立面図・断面図の表記内容と造園計画（表現力）が、入賞のポイントになりました。
 - 3) 課題3
設計製図であり、配置・平面・意匠・構造計画および、製図力・表現力などトータルなもので審査されました。入賞作品は平面・立面・構造計画がすぐれており、図面表現が良いものが入賞のポイントになりました。
 - 4) 課題4
与えられた間取り・敷地から配置図兼1階平面図（造園計画を含む）及び2階平面図を作図する内容で、表現は製図規約に基づきます。課題内容を良く把握し、図面の基本がしっかりと出来ているかが審査のポイントになりました。
 - 5) CAD作品展
使用するソフトが持っている独自の作図表現があるが、作図表現ではなく作品の内容重視ですすめる。
プレゼンテーション、テクニカル、アイデア等がしっかりと出来ているかが審査のポイントになりました。

[IV] 審査講評

(1) 課題1から課題4

1) チェックポイント

入賞作品のなかにも、多少の記入もれや未熟な表現のものもあります。

課題1 軒先マワリ詳細図
<ul style="list-style-type: none">・線のおさまり、線種（太さ、線種）・文字（部材名称、寸法）・軒の出寸法、野縁の位置（ピッチ寸法）、野縁、鼻隠、広小舞、垂木、屋根下地、見切縁、羽子板ボルト、雨樋
課題2 木造平家建専用住宅
<ul style="list-style-type: none">・道路表記、敷地境界線から建物までの距離、切断位置（視方向矢印の欠落含む）・図面間の不整合・屋根の構造・スケール感（添景）
課題3 木造2階建専用住宅
<ul style="list-style-type: none">・基本製図力（線、文字、数字）・断面図（高さ、開口部、切断位置）・造園計画（描きすぎて平面図が不明瞭）、構造計画力（構造を無視）、図面間の不整合・通し柱、柱、通り芯、道路と敷地の高低差、隣地境界線の寸法、断面図の寸法、切断位置
課題4 CAD製図
<ul style="list-style-type: none">・基本製図力（方位、道路、寸法、隣地境界線）・通り芯、方位、道路、寸法、通し柱、柱

2) 総評

課題1 軒先マワリ詳細図
<p>金賞に輝いた図面は、各部品等の形状も作図が正確で不適切な記載が見あたらず、線種も統一性のある適切な表現で描かれた作品であった。銀賞の作品は、作図の正確さでは差がなかったが、線種の表現において未熟さを感じられる部分がマイナスポイントとして評価の分かれ目となった。</p> <p>図の正確さにおいて基本寸法をおさえていない作品が多数目立った。1年生の課題であることから作図の手順・正確な寸法の取り方を理解させ、線の太さ等の使い分けにより優れた表現が出来るようにしたい。</p>
課題2 木造平家建専用住宅
<p>金賞の図面は、図面の正確な描きこみがしっかりとできている。遠目に図面を見たときの各図のレイアウトや断面線とその他の線のメリハリがはっきりと表現できており、文字や寸法も大変丁寧に描きこんである。課題内容をしっかりと把握して、与えられた間取りの建物を、オリジナリティー溢れる造園計画と意匠により、夢のある建物にしてある。図面としての完成度が高く、たいへんすばらしい作品に仕上がっていた。</p> <p>全体として、屋根仕上げに工夫が見られ、発想力豊かな意欲的な作品が多かった。しかし、各図の整合性の欠ける図面もあり、基本的な小屋伏計画をしっかりと行う必要がある。平面図における描きこみにたいへん力の入った作品が多く、その努力はすばらしいが、図面が不明瞭になっている。</p>

課題3 木造2階建専用住宅

金賞の作品のプランは、特殊な例であるが、1200モジュールを採用し、全体的にゆったりで、老夫婦専用のサニタールームを寝室に隣接させたり、緩やかなスロープを設けるなど、高齢者への配慮もしっかりできている。また、垂直型風力発電を設けるなど、環境への配慮も評価できる。製図の規則事項がきちんとかけており、線の使分けもしっかりできたメリハリのある大変力強い秀作である。

複雑な形態を追いながら、構造的な不一致があり、練り切れていない作品も多い。動線計画・柱梁の配置・通し柱の配置等基本的な計画・構造を十分に練る必要がある。

課題4 CAD製図

提出作品の全体的な印象として、添景や仕上げ等を丹念に書き込んだCADの特性を活かした非常に密度の高い図面が多かった。しかし、1/100というスケールに適した図面表現がなされているかという観点から疑問が残った。

部品の張り付けに力が注がれ過剰な意匠表現になっているが、CAD図面であっても題意を把握し、設計製図として正しく情報を伝える図面内容（JIS製図法による）として指導されたい。

スロープによるデッキへのアプローチ（惜しくも急勾配）や各室にバルコニーを配するなど、生活者に配慮したプランニングがなされていたが、金賞については該当なしとした。

(2) CAD作品展

1) 講評

1等 インフォマティクス賞

シンプルな図面を単調に感じさせない色彩及びレイアウトが印象的な作品でした。プランを同一にして開口部で差異化を図るというアイデアも実現可能な提案であると思わせます。若い夫婦を対象とした狭小住宅の提案という内容ですが、リタイアした高齢者の住まいやセカンドハウスとしても活用出来そうです。平面計画に若干疑問が残る部分もありますが、核家族化・個人化する社会への提案という見地を評価しました。

2等 デザイン賞

鮮やかな内観・外観パースや複雑な鳥瞰図など様々なプレゼンテーションを展開する作品がみられ、前年度に比して全般的にレベルが高い作品になりました。審査のなかで特に高評価を得たのが本作品でした。ボールをイメージした曲線により壁面及び屋根面が構成されており、野球用品店の内容に則した楽しい立面になっています。外観パースでも曲面の表現が見事でした。

3等 アイデア賞

16本の柱に巻付くように螺旋を描きながら諸室が展開していく独創的な構成と、床レベルが徐々に変化していく様相を立面及び断面で捉えようとした取り組みを評価しました。2年生ということなので、発想力と表現力に磨きをかけることでより一層の成長を期待しています。

〔V〕審査委員

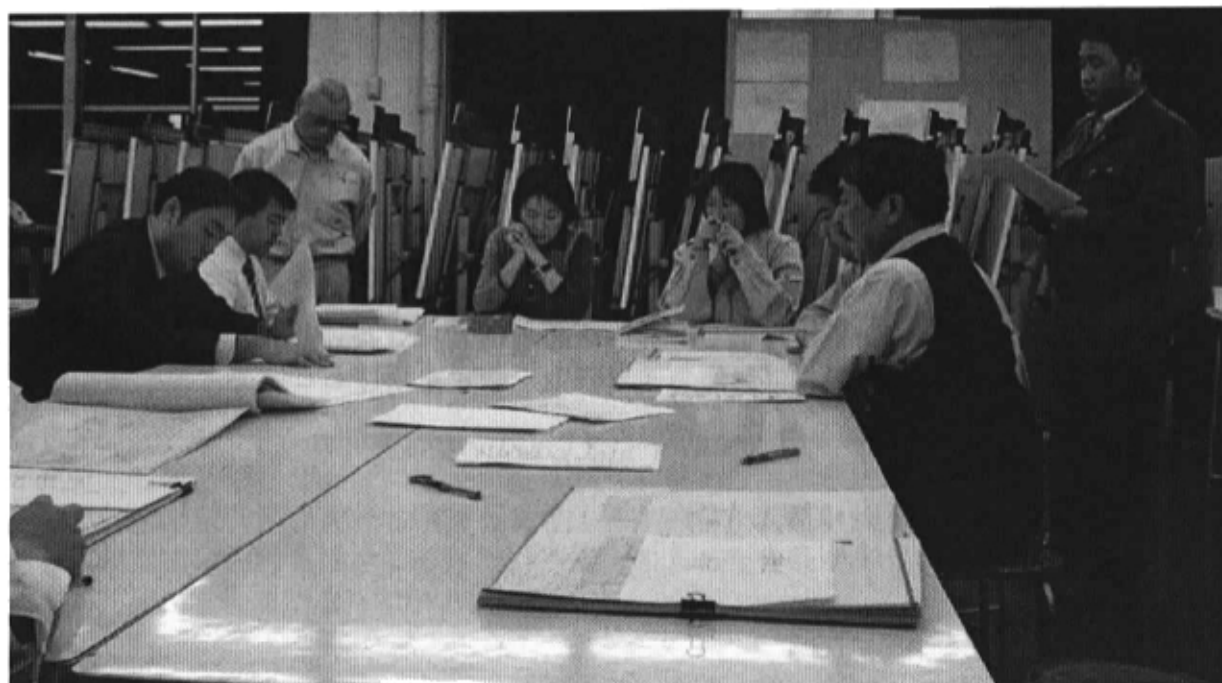
第24回全国高校生建築製図コンクールおよび第10回全国高校生建築CAD作品展の、審査・作品開封・作品梱包・作品発送などに携わって頂いた先生方は以下の方々です。
(敬称略、順不同)

福島 勝 (日工大付東京工)
 筒井 斉 (神奈川工定)
 鮎谷 知久 (安田学園)
 菊地 貞介 (市川工)
 小島 聡 (東総工)
 伊藤 和生 (墨田工定)
 吉野 博行 (熊谷工)
 森嶋 真一 (関東第一)
 吉城 守 (春日部工)
 小沢 宏 (蔵前工)
 鈴木 健 (田無工)
 荒木 宏道 (前橋工定)
 菅沼 雄介 (富士北稜)
 峯 孝一 (京葉工)
 寒河江美和 (新発田南)
 小嶋 計一 (宇都宮工)
 根岸 俊行 (館林商工)
 笹崎ひろみ (田無工)
 高橋 篤史 (安田学園)



櫻井 良明 (甲府工) 橋本 政美 (昭和第一)
 米原 良慈 (小石川工定) 鈴木 隆 (墨田工)
 小島 正巳 (前橋工) 江原 聖直 (大宮工)
 ト部寿々子 (市川工)

来年度も審査講評を参考にして頂き、ご応募くださるようお願い申し上げます。
 なお、審査結果は「住宅建築」(建築資料研究社刊)に、掲載いたしました。



1.3. 資格取得推進委員会報告

東京都立墨田工業高等学校 鈴木 隆

新たな取り組みに向かい始めて5年の歳月が流れました。

施工技術者試験（現 施工管理士2検定）同様、建築科生徒が建築士試験にトライできるようにとの活動です。

現在は、○×解答式の建築士試験問題を、会員各校様宛都道府県理事にお願いし、配布いただき結果の報告をお待ちしている段階です。皆様方のお力をお借りし、実のあるものとしてゆきたいと思えます。今後ともご協力方よろしくお願いいたします。

また、各都道府県への建築士試験受験に関する陳情につきましても、今後ご協力いただくことになると思えますので重ねてお願い申し上げます。

【本年度の活動報告】

3月	宇都宮工	工高生建築士受験についての研究協議
4月	蔵前工	模擬問題作成についての研究協議
5月	蔵前工	工高生建築士試験受験についての研究協議
		模擬問題作成についての研究協議
6月	蔵前工	模擬問題作成についての研究協議
		西日本建築工高連盟との共同歩調について
8月	静岡県	第56回東日本建築教育研究会総会・研究協議会
		建設系高校生体験実習
		工高生建築士受験についての研究協議
9月		模擬問題作成についての研究協議
10月	蔵前工	陳情に関する調査打ち合わせ
		全国工業高等学校長協会本会の取り組みについて協力依頼
11月	蔵前工	前項をふまえて今後の取り組みについての研究協議
		アンケートの集計
		陳情依頼文の発送

建築士試験についての情報は東日本建築教育研究会資格取得推進委員会をご覧ください。近日中に更新させていただきます。今後ともよろしくお願いいたします。

14. 平成18年度 建設系高校生体験実習報告書

東京都立葛西工業高等学校 白井尚美

夏休みも後半に突入し、猛暑が続く中、今年度も富士山の麓にある「富士教育訓練センター」において、未来の建設業を担う高校生7名が参加し、建設系高校生体験実習が行われました。

センターには最新の機器や実物大の教材が揃っており、また、現場で活躍されていた職人や監督が講師として実践的な指導を行っています。参加した生徒全員が「よかった」と感じており、この実習が生徒の更なる学習意欲につながることを期待したいと思います。

日時：平成18年8月21日(月)～8月23日(水)

場所：職業訓練法人 全国建設産業教育訓練協会

富士教育訓練センター(静岡県富士宮市根原)

参加生徒：7名(東京都立総合工科高校1年生4名、東京都立蔵前工業高校2年生3名)

8月21日(月)	
11:30	富士駅南口集合
12:30	現地到着 入校式
13:15～13:45	ガイダンス
14:00～15:40	講義：鉄筋工事について (見積積算・継手・かぶり厚・施工等)
15:50～17:00	講義：型枠工事について (材料・運搬・工事等)
18:45～20:00	ミーティング (安全教育・朝礼の進め方等)
8月22日(火)	
7:50～8:30	朝礼 (ラジオ体操・タッチアンドコール等)
8:40～11:00	実習：測量 (据付方法・GPSの使い方等)
11:00～12:30	講義および実習：鉄筋工事について (墨出し・組立・結束等)
13:00～17:00	実習：鉄筋・型枠工事 (鉄筋コンクリート造基礎部分工事)
8月23日(水)	
7:50～8:30	朝礼 (ラジオ体操・タッチアンドコール等)
8:45～12:00	実習：型枠工事 (鉄筋コンクリート造基礎部分工事)
13:00	閉校式



15. 関東ブロックの活動報告

東京都立蔵前工業高等学校 小澤 誠志

ブロック活動は2004年度から発足し、栃木・群馬・埼玉・茨城・千葉・東京・神奈川・山梨の1都7県で「関東ブロック」を組織することになりました。ブロックをまとめる理事は都道府県理事が1年間を任期として東京から山梨まで上記の順番で担当します。

(ただし、スタート当初は例外として東京が2年間続けて担当しました。)

2004年度は準備期間で実際の活動はありませんでしたが、関東ブロックでは2005年度は下記の3つの事業を実施しました。

1. 建築科教員のための進路情報研修会

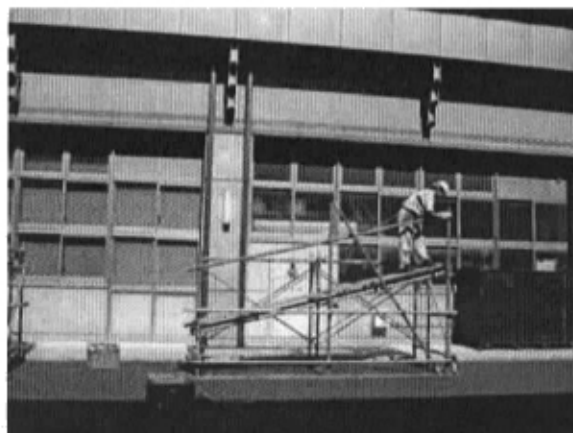
(2005年12月6日(火) 東京都立蔵前工業高等学校)

「特化した建築系専門学校」の説明会が実施されました。

(中央工学校・日本建築専門学校・東京工学院・ICS カレッジ オブ アーツ・浅野工学専門学校)

2. 建築科教員のための3級とび技能検定研修会

(2006年5月20日(土) 東京都立田無工業高等学校)



生徒への受検指導のために「3級とび技能検定」技能課題である単管足場の組立て研修が実施されました。

3. 木造住宅耐震診断技術研修会

(2006年7月22日(土) 千葉県立市川工業高等学校)

市川工業高等学校をはじめ生徒が、地域の木造建築物の耐震診断を実施している学校があります。生徒指導のための耐震診断技術方法についての研修が実施されました。

これらの研修の中には、各学校への広報が充分でなかったために参加者が少ないものもありましたが、内容としてはそれぞれ充実したものでした。

東京都立蔵前工業高等学校の関東ブロック理事の期間はすでに終了し、8月から1年間は神奈川県担当(神奈川県立向の岡工業高等学校)となりますが、今後より充実した企画が実施され多くの先生方の参加を得、各校での教育に活用されることを期待します。

16. 北海道美唄工業高等学校・建築科

北海道美唄工業高等学校 菅原良一

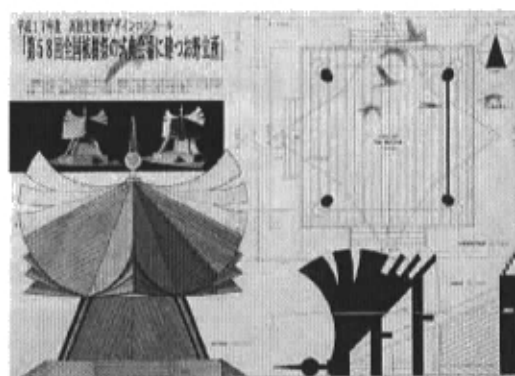
1. はじめに

北海道で建築関係の学科を持つ高校は、13校ありそのうち5校が定時制課程を併設している。(13校のうち4校が建築系選択の学科となっている。)

北海道の工業高校を取り巻く環境は、少子化の影響、産業界の厳しい現状から主要都市から離れた高校においては、統合によるコース制を導入し、変革を進めている。

北海道における建築教育への取り組みとしていくつか挙げられるが、北海道建設部主催の「高校生建築デザインコンクール」についてである。

高校生建築デザインコンクールは、平成8年度より実施され今年で第11回となります。工業高校(建築系学科)に在籍する建築を志す生徒を対象に、アイデアを募集し、道民から愛・親しまれる公共建築物づくりが実現するコンクールです。昨年平成17年度の募集は「第58回全国植樹祭の式典会場に建つお野立所」を課題に実施されました。お野立所は、平成19年に行われる式典で、今年(H18)より工事が始まります。函館工業高校が最優秀賞になりました。



【美唄工業出品作品】

今年度は「国定公園内に建つトイレ」を課題に実施されている。

2. 本校の沿革

本校は、昭和16年2月25日に北海道庁立美唄工業学校(機械科、電気科、採鉱科)として発足しました。昭和25年4月1日に高等学校の校名変更により北海道美唄工業高等学校と変更になる。昭和26年4月1日に建築科・土木科の2学科を増設し、隣町の茶志内分校を茶志内中学校に置く。昭和27年に茶志内分校が北海道茶志内高等学校(美唄市立)として独立後、学科の新設、学級増設を繰り返し一番多いときで、全日制6学科8間口、定時制1学科1間口の大規模校なる。

現在、創立65年目において、社会情勢等の変化に伴い3学科3間口なる。(電子機械科、電気システム科、建築科)

校訓の「ほうおんこうせい報恩效誠」「わちゆうきようりよく和衷協力」「じきょうけんさん自彊研鑽」をもとに、工業人育成に努力している。

本校には、道内でただ一つの屋内ライミング施設を持ち、全国大会出場、一般市民グループにも開放をしている。

3. 建築科における活動

本校建築科においては、インターシップ、現場見学など建築に関する教育活動を、空知建設業協会の協力をいただき行っているが、特に地域との連携を密にした取り組みについ

報告します。

地域主催のイベントへの参加、大型店舗における生徒作品の展示を長期間にわたり無料で実施、市民開放講座（木工の楽しさを知ってもらう）、中学校への出前授業の実施、課題研究製作物を市役所に提供するなど、地域の人に工業高校の建築科をより深く知ってもらうために行っている。

課題研究授業においては、ログハウス構造で切り妻の屋根、窓を設け妻側に明かり取りを設けた、物置程度の小屋作りを続けている。この建物は2年がかりで製作をしてきており今年で3棟目である。最初の小屋については、現在、市の施設工房の物入れとして利用されている。



中学校への出前授業は、平成17年より美唄市内の中学生を対象に実施、高校の授業の雰囲気を知ってもらうとともに、高校が有する技術を中学校の授業に活用してもらう目的で企画した。昨年度は建築科だけで行ったが、今年（H18）は、電気システム科も実施している。希望中学校は、昨年1校から3校となっている。

内容については、中学校技術の授業で、1年生を対象に「ノコギリの使用法」を行った。建築科生徒を指導員として引率をし、ノコの仕組み・切る体勢・安全指導をおこない、実際に材料を切らせ体験をしてもらう。その後、各自にこちらで用意した「鉛筆立て」の材料を配布し、切断・組み立てを行いもの作りの完成・達成感を中学生に感じてもらった。作品の着色については、時間が無く各自でおこなう



形とした。評価については、「技術とものづくり」の評価基準に則り、中学校教師に、お願いすることとした。今年度は、中学1年生と3年生にも実施する予定で進んでいる。

市民開放講座は、5年間継続して実施している。市民の方に、木工の楽しさを知ってもらうため、学校を知ってもらうために、日曜大工の感覚で実施している。参加者は、ガーデニングに関しての作品を完成させている。

工業高校（建築）を地域の人に知ってもらうために、地域とのつながりを強く持ち、地域との連携を積極的に取り組んでいきたいと考えて行っている。

17. 北海道旭川工業高等学校 建築教育の現状

北海道旭川工業高等学校 長 島 恒 介

1. はじめに

北海道で建築関係の学科を持つ高校は、道立高校で函館工業高校、室蘭工業高校、苫小牧工業高校、札幌工業高校、小樽工業高校、美唄工業高校、旭川工業高校、留萌千望高校、名寄光凌高校、北見工業高校、帯広工業高校、釧路工業高校の12校、私立高校は旭川実業高校1校、で計13校である。

しかし、少子化や産業界の厳しい現状から建築科単科としてではなくて学科運営がなされている学校が道立高校の中で4校ある。

北海道における建築教育への取り組みとしていくつかのものが挙げられるが、各校が全体として取り組んでいるのが、北海道主催の「高校生建築デザインコンクール」と、全国工業高等学校長協会主催の「ものづくりコンテスト」がある。

2. 旭川工業高等学校の沿革

昭和16年4月北海道庁立旭川工業学校として、応用化学科、建築科、土木科でスタートし、昭和25年定時制課程を併設し、北海道旭川工業高等学校と改称している。その後26年に電気科、31年に機械科、33年に自動車科、36年に電子工業科が新設されている。その後、機械科が電子機械科に、電子工業科が情報技術科に転換し、また、土木科と電子機械科は2学級から1学級になるなどして、現在は7科7間口となっている。

平成13年には創立60周年を迎えた。

また、部活動についても、運動系文化系ともに盛んである。

3. 旭工・建築科

「建築に関する基礎・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における建築の意義や役割を理解させるとともに、建築技術や環境問題など就業体験を通じて、主体的に判断し解決する態度を育て、社会で実践できる工業人を育成する」という、学科目標のもとに、教育活動を行っている。

生徒の入学者のうち女子については、過去には20名程度入学した時代もあったようだが、ここ数年、毎年5名前後となっている。入学者のうち、TVを見て大工になりたくなり、工業高校に来たという者も少なくない。

進路に関しては、約半数が進学、残りは就職となるが、大工などの職人を目指して就職する者も多くなってきている。全国的に求人が増えていると言われているが、建築に限っては、北海道ではあまり実感がなく、特に旭川においてはひどい状況にある。このような中でも、就職希望者が希望職種に就けるように建築科の教員が開拓している。

また、後で述べるが、インターンシップやデュアルシステムを絡めて就職に結びつくように生徒に指導を行っている。

4. 旭工建築科の実習

1年生では、「実習」という教科がないため「工業技術基礎」という時間の中で、製図と並行してある時期に「平家建専用住宅」のバルサ模型を製作している。また、1年生の最後の課題として木造平家建の「自由設計」を行い、科内で発表会を行っている。

2年生では、「実習」を「測量」、「PC」、「木工」の3パートに分けて3週ローテーションで行っている。「測量」ではレベル測量、トランシット測量を、「PC」ではJW-CAD、表計算、ワープロを、「木工」では組木パズルや簡単な花台を作成、それに継手や仕口の作成も行っている。特に、組木パズルや花台は1学期末にある学校祭で販売している。CADに関しては、以前は興味がある者が使うという感じであったが、就職してから即戦力になることなどから、全員に一度は使わせるように実習の1つに取り入れている。

また、2年生では、9月に、希望者（ほぼ40名全員）がインターンシップに行き、設計事務所では確実に、現場でもCADを使うことが予想されるので、実習の中に取り込んでいる。

3年生での「実習」は選択実習としている。内容としては「調査研究」、「木工」、「設計コンペ」の3班に分かれて行う。「調査研究」班は、建築模型作成や建築物、建築家に関する調査研究を行い、班内で発表する。「木工」班は椅子などを自分で設計し図面を描いて製作する。「設計コンペ」班は2つ以上のコンペに参加することを必修とし、北海道主催の「高校生建築デザインコンクール」は全員参加する事としている。また、卒業設計として、旭川のテーマともいえる「北彩都あさひかわ」、「買物公園通り空き店舗改修」「旭山動物園内の新築物」の中から1テーマ選び取り組むことにしている。また、この卒業設計の発表会を外部の方、保護者にも参観を呼びかけて、12月に行っている。

最後に建築科では4年前から2年生でインターンシップを行っている。また、我が校では、2年前から3年間の文部科学省推進事業のモデル地域指定を受けて、デュアルシステムを実施しており、建築科としては昨年より3年生でデュアルシステムに参加している。

デュアルシステムに関しては、1ヶ月という長期間の実習であることと、就職に結びつけることをねらいとしていることから、生徒を選考するにあたり十分吟味している。

昨年、今年と3名ずつ実習に行かせている。昨年、実習に行った生徒は3名とも実習先に就職をし、今年の生徒も現場の方々からは好印象を頂いているので、是非就職つながって欲しいと願っている。今年でデュアルシステムの指定校を外れるが、来年からも是非続けていきたいと思う。

18. 茨城県の工業高等学校建築教育の現況

茨城県立下館工業高等学校 太田 康史

1. 茨城県の工業高等学校建築系学科の概要

○ 茨城県立水戸工業高等学校 建築科

本校は、明治42年に「茨城県工業学校」と命名され、茨城県内で唯一の工業高校として吉田ヶ丘に誕生した。

創立97年の歩みの間に、学制改革、学科の新設・改編などさまざまな変遷を経て、現在では6学科を有する大規模な工業高校として県内をリードしてきた。

建築科は各学年1クラス40人編成であり、6人のスタッフで専門教育に尽力している。建築科の指導方針

- ・「工業技術基礎」「実習」等の体験学習をより重視し、ものづくり教育を推進する。
- ・「製図」を各教科の集大成と位置づけ、技法はもとより各自の思考を図面・模型化する。
- ・CADにより建築空間の知覚能力を伸長する。
- ・「二級建築士試験」「危険物取扱者試験」などの資格取得を積極的に推進する。

○ 茨城県立土浦工業高等学校 建築科

本校は昭和33年に創立、建築科は10年目にあたる昭和43年に創設され、現在機械、電気、建築、土木、情報技術各科五科、一学年7クラスからなる21クラスで構成され東に霞ヶ浦、西に筑波山を配した土浦の町を高台から見据える真鍋の丘に近々五〇周年を迎えようとしています。県南地区を中心に広域で生徒を受け入れておりましたが、隣接工業高校の新設、建設、建築デザイン科などの創設に伴い本校への受験生の減少を受けその対応に追われています。そのような中で変化してゆく本科希望の生徒の状況に対応すべく、建築教育も手で描く製図から、CAD等の入力してゆく製図への対応にも積極的に取り組み、生徒の可能性を広げるため、現在各種資格など積極的に取り組んでおります。

建築設計コンクール、コンペティションなどへの参加にも取り組んでゆきましたが先のCADの導入、移行が整ってゆけばさらに躍進が望めることと思います。

また今年、ものづくり大会(木工加工)にも積極的に取り組み、もう一度ものを自分の手で作るという原点に戻り、今後の課題として重点的に取り組むようにしたいと考えています。建築棟、普通科教室本館のリニューアルにともない時代とともに土浦工業高校、そして建築科は変貌し、新しい工業高校のあり方を模索しています。

○ 茨城県立大宮工業高等学校 建築科

本校は、昭和49年に建築科・設備工業科・土木科・工業化学科の4学科の全日制工業高校として創立された。しかし、県立高等学校再編整備により、近隣の大宮高校と統合し、平成18年4月から新たに常陸大宮高校が創立された。普通科・機械科・情報技術科の3学科の全日制でスタートした。それに伴い本校は平成20年閉校することとなった。建築科は閉校の一年前の平成19年3月を持って幕を閉じる。建築科の卒業生は、総数920名にも及び、現在、実社会や大学等で活躍している。

場所は県の中心である水戸市から北へ20km離れており近くを久慈川が流れ、かつては古墳があり一騎山と言われ、歴史のある緑豊かな環境に恵まれている。

建築科の目標としては、専門教科の中で、基礎的な知識を習得させることに重点を置いている。また、主として実習や課題研究を通し、技術者としての業務に従事する人材を育成し、建築技術の総合的な目的・社会的意味を理解させている。

その他としては、学校全体が一丸となって各種資格取得を積極的に推進し実施している。

○ 茨城県立つくば工科高等学校 建築デザイン科

本校は昭和2年に開校し、平成3年に電子機械科と情報技術科、平成4年に建築デザイン科が新設され、平成9年校名を「茨城県立つくば工科高等学校」に改称しました。現在は電子機械科1クラス、情報技術科2クラス、建築デザイン科2クラスの1学年5学級で生徒数は全校で約580人です。本校の教育目標は「豊かな人間性と科学する心をそだてる」です。1年生の時は、各学科の壁をこえてミックスホームルームを導入しています。2年次からは各学科のクラスに分かれます。また、進学者のために普通科目と専門科目の選択を導入しています。

建築デザイン科は「住まう空間に夢を！」をモットーに、1、2年次には建築やデザインの基礎を学び、3年生でコース制を導入しており、建築コースとデザインコースに分かれ、さらに専門的な学習に取り組みます。また、校外学習や講演会、検定試験等も積極的に行い、人にやさしい建築物の計画を提案できる建築技術者の育成を目指します。

○ 茨城県立下館工業高等学校 建設工学科 建築コース

本校は、地元下館の他多くの工業団地に囲まれた恵まれた環境に位置しています。各企業より活躍を囑望され、期待も大きく、就職の求人倍率も高水準を維持しています。その期待に応えるべく創造性豊かでたくましい精神力を備えた人間教育をモットーに励んでいます。また、各種資格検定試験の機会も多く、その取得に向けての学習等をとおして高度で深みのある技術・技能を身につけ、現場での即戦力として活躍できる中堅技術者の育成を目指しています。

昭和37年の創立当初、機械科、電気科、電気通信科の3学科6学級でスタートし、平成6年度に地域の建設業協会の強い要望を受けて電気科1学級が建設工学科に改編され、現在は機械科と電子科が2学級、電気科と建設工学科が1学級の定員720名の規模です。

建設工学科の特色は、2年進級時に建築コースと都市工学コース（土木）のどちらかを選択することにあります。1年次は共通の基礎科目（製図・工業技術基礎・情報技術基礎・基礎力学）、2・3年次にはコース別の専門科目を履修します。

部活では、いくつかの部が関東大会、全国大会に出場し、特にワンダーフォーゲル部は全国高校総体2年連覇（平成14、15年度）の偉業を達成しました。

2. 本県では少しでも魅力のある学科となるよう以下の点で努力をしています。

① 建設現場見学の実施

建設業協会との連携で実施している行事で、1年生を対象として建設業についての概要を理解して学習意欲を目的があります。同じ目的で学校の計画で2・3年生対象に実施し

ている学校もあります。

② 建設現場実習の実施

同じく建設業協会との連携で実施している行事で2・3年生を対象にとして建築工事現場を実体験して進路選択に役立てる目的があります。

③ 地域との連携

学校によっては古民家および街並みの調査活動に部活動として参加しています。また、設計課題の中へ市の都市計画事業を反映させながら進めることで、郷土への関心を高めることをねらっています。

19. 神奈川県立向の岡工業高等学校 建設科

神奈川県立向の岡工業高等学校 鷹野正明

1. はじめに

本校は、神奈川県東部（川崎市多摩区）に位置しています。校舎からは、都県境となる多摩川を眺めることができます。自然環境に恵まれるとともに、交通の便にも恵まれ川崎市を南北に走る JR 南武線の久地駅より徒歩 10 分。小田急線、東急線からのアクセスも良く川崎市内を中心に、周辺地域から多くの生徒が通学しています。

2. 本校の沿革

- 昭和 36 年 10 月 神奈川県立向ヶ丘工業高等学校設立公示
- 昭和 37 年 2 月 神奈川県立学校設置規則一部改正により校名を「神奈川県立向の岡工業高等学校」に改められる
- 昭和 37 年 4 月 第 1 回入学式挙行（機械科 41 名、建築科 42 名、土木科 40 名、計 123 名）
- 昭和 38 年 4 月 定時制開設式・第 1 回入学式挙行
- 平成 3 年 4 月 学科改編により建築科、土木科を統合し建設科と改称
- 平成 5 年 4 月 定時制工業 3 科一括募集により定員 70 名となる
- 平成 8 年 4 月 全日制工業 3 科共 2 学級編成となる
- 平成 13 年 10 月 創立 40 周年

3. 本校の学校目標

- (1) 基本的生活習慣の確立をめざし、基礎学力の向上及び学校生活の充実を図る。
- (2) ものづくり・町づくりの基礎・基本となる技能・技術教育を図る。
- (3) 生徒の興味関心に応じ、将来を見据えたキャリア教育の充実を図る。
- (4) 生徒の自発性を高め、教科外活動の充実を図る。
- (5) 全校で ISO14001 の活動を展開し、各科・各教科と連携して環境問題への取り組みを積極的にすすめる。
- (6) 工業の専門学校として地域・企業・各教育機関との連携を推進する。

4. 本校の特色

学校目標に盛り込まれているように本校では、環境教育に力を入れており工業 3 科共通で 1 年次において、学校設定科目として「環境と技術」を開講しています。また年に一度環境委員を中心に全校で地域清掃活動を行っています。さらに建設科では、同じく 1 年次に学校設定科目「建設一般」を開講し、建築および都市工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を学んでいます。2 年次からは、「建築コース」若しくは「都市工学コース」のいずれかのコースを選択し専門的な学習を行っています。授業においては、学校の立地条件を生かし多摩川の水質調査を行うとともに、リサイクル活動の一環として空き缶を活用した擬木の制作を 1 年次の工業技術基礎において行っています。さらに 3 年次の課題研究において、校内環境整備の一環として擬木の設置を行っています。

5. 神奈川県建設系学科設置校

(1) 神奈川県立神奈川工業高等学校 全日制
明治 45 年創立 明治 45 年建築科設置 平成 3 年建設科建築コースに変更

神奈川県立神奈川工業高等学校 定時制
明治 45 年創立 大正 5 年建築科設置 平成 3 年建設科建築コースに変更

(2) 神奈川県立向の岡工業高等学校 全日制
昭和 36 年創立 昭和 36 年建築科設置 平成 3 年建設科に変更

神奈川県立向の岡工業高等学校 定時制
昭和 36 年創立 昭和 36 年建築科設置 平成 3 年建設科に変更

(3) 神奈川県立藤沢工科高等学校 全日制
平成 15 年創立 平成 15 年総合技術科建築系設置

(4) 神奈川県立小田原城北工業高等学校 全日制
昭和 36 年創立 昭和 36 年建築科設置 平成 3 年建設科に学科統合

(5) 神奈川県立磯子工業高等学校 全日制
昭和 36 年創立 平成 3 年建設科設置

(6) 川崎市立川崎総合科学高等学校 全日制
昭和 37 年創立 昭和 37 年建築科設置 平成 5 年建設工学科に変更

(7) 横須賀市立横須賀総合高等学校 全日制
平成 15 年創立

(8) 横浜市立鶴見工業高等学校 全日制
昭和 11 年創立 昭和 24 年建設科建築コース設置 昭和 38 年建築科に変更

(9) 横浜市立横浜総合高等学校 定時制
平成 13 年創立 平成 14 年総合学科設置

20. より高きを求めてやまない「尚美」のころ

富山県立高岡工芸高等学校 磯 辺 哲

本校は明治27年10月22日富山県工芸学校として創立され、平成16年10月に110周年をむかえた工業・工芸の専門学科のみの伝統校である。より高きを求めてやまない「尚美」の精神を受け継ぎ、本県の工芸・工業教育における先導的役割をつとめてきた。その間、2万4千有余名の有為な人材を世に送っている。

現在設置されている学科は、機械科・電子機械科・電気科・建築科・工芸科・デザイン科の6学科があり、生徒数約600名が在籍し、学習や部活動に励んでいる。

本校の特色としては、創造性豊かな学習活動のもと、進学・就職の希望が叶えられる魅力ある教育を行っていること。また、特別活動をとおして、生徒の自己啓発を図るとともに、ボランティア活動や部活動を活発にし、豊かな心と行動力を育てる、等があげられる。

また、学校付属の青井記念館美術館では創立以来収集に努めてきた貴重な美術工芸品(収蔵品数約800点)を一般公開するとともに、中学生の美術作品を集めた青井中学生美術展の開催するなど地域に開かれた学校である。

□建築科の概要

本校建築科は昭和26年に設置され、現在まで約2000余名の卒業生を輩出している。県内に建築科を設置している工業系高等学校は、本校と富山工業高等学校に1学級づつしかなく、県内建設業界からの要望・期待が大変大きい。また、本校では、約30年前に建築科同窓会が発足し、卒業生相互の人的ネットワークが後輩にも受けつがれている。



現在工事中の新校舎

□指導方針

①専門科目(建築構造・建築計画・構造設計等)と実習・製図との融合を図り、知識の統合を目指す。

②「ものづくり」を通して実践力を育成する。

③将来、建築士・建築施工技術者等の資格取得ができるよう指導する。

本校では、専門教科の融合と空間認知能力を高めるため、製図の課題を利用して軸組模型や外観模型の製作を積極的に取り入れている。また、近年の生徒の進路選択の多様化に対応するため選択教科を多くしている。特に3年次には、CAD、建築計画、建築構造設計、実習の選択教科を開設して、より深く学習したい生徒に対応している。

□課題研究

問題解決能力や創造性を高めるため、いろいろなテーマに取り組んできた。以下に主な作品をあげる。

○作品制作

- ・湾曲集成材を使った駐輪場(生徒用駐輪場として使用中)
- ・木製湾曲トラスのアーチ
- ・木造倉庫の制作

○調査研究

- ・国宝瑞龍寺の木組みの研究と模型制作
- ・合掌造り家屋の研究と模型制作
- ・伏木地区再開発計画

- ・勝興寺本堂保存改修工事に伴う調査研究
- ・新校舎計画案
- ・北陸新幹線「新高岡駅」と周辺計画案

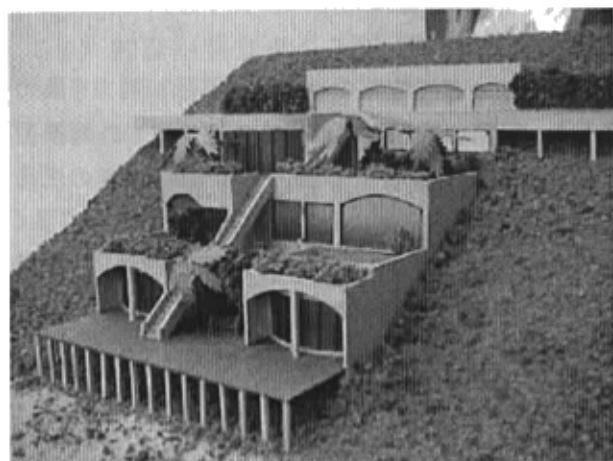
○自由設計

外部の団体、企業の主催する設計競技・コンテストの課題に取り組んでいる。例年、多数の生徒が優秀な成績を収めている。

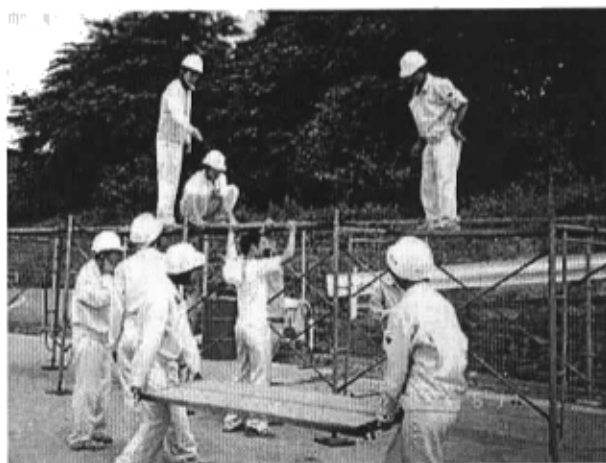
本年度の研究テーマの主のものは、

- ・木造平屋建住宅原寸模型
(完成後は、電気科屋内配線工事实習に使用)
- ・自由設計(2設計競技に出品予定である。)
- ・自由設計Ⅱ
(生徒の設計能力向上のために本年度より実施、2学期より全員がテーマを設定し取り組む。)

例年2月に行う課題研究発表会には、設計事務所や市役所等から専門家を招き、アドバイスを受けている。これが、生徒には大変好評である。



設計競技会出品作品



足場組立実習

□進路状況

本校は、進学・就職いずれの進路希望もかなえられる学校を目指している。

平成17年度実績は、進学では4年制大学5名、短大7名、専門学校10名と希望校に全員進学している。

就職では、希望者全員が早い時期に内定した。ほとんどの生徒が県内の建築関係企業を希望し、就職した。また、近年では現場監督を目指す女子生徒や大工等を希望する生徒が増えてきた。

本年度の求人状況は、建設業界の景気回復からここ数年になく求人会社数も多く生徒の会社選択の幅が広がったと見受けられる。

□部活動等

本校は、運動部、文化系・工学系の部が積極的に活動している。

特に運動部では、バスケットボール部、陸上部、弓道部、バドミントン部が全国大会出場常連である。

学校概要

- 富山県立高岡工芸高等学校
- 〒933-8518 高岡市中川1丁目1番20号
- TEL(0766)21-1630 FAX(0766)22-1631
- 全校生徒:596名(6学科5クラス)
- 建築科:118名(1~3年各1クラス)

TOPICS

- 尚美展
明治36年より毎年10月に行われる生徒・教職員・卒業生が一体となった発表の場である。本校の伝統的な一大イベントである。

2 1. 事務局報告

1. 大会開催都道府県について

現在、開催順を下記の通り計画をしております。

18	19	20	21	22	23	24	25
静岡	岩手	富山・石川・福井	埼玉	福島	神奈川	宮城	新潟
決定	決定	決定	決定	決定	決定	決定	予定

2. 東日本建築教育研究会ホームページを開設中です。

各種要項・案内などが掲載されています。

ご利用ください。

http://www.geocities.jp/hn_kkk/

『連絡』

1. 東日本建築教育研究会刊行物

☆建築構造図集	実教出版(株)	¥ 890
☆第五版 建築の基礎問題	実教出版(株)	¥ 1470
☆建築法規学習ノート三訂版	実教出版(株)	¥ 1470

上記3冊を本研究会では刊行しています。その収益は研究会の活動資金となりますので多くの学校での採用をお願い致します。

2. 会員校動静（平成18年5月現在）

会員校155校

【退会】 栃木県・私立白鷗大学足利高等学校 建築科
埼玉県・武蔵越生高等学校 建築科

【入会】 東京都立総合工科高等学校（全） 建築都市工学科
東京都立総合工科高等学校（定） 総合技術科

3. 準会員

【申請】 ト 部 寿々子 千葉県立市川工業高等学校
田 中 和 夫 東京都立八王子工業高等学校

4. 事務局 会計の交代について

4月より本部事務局 会計 柳澤 力也 異動のため新会計
田無工業高等学校 片岡 等に交代しました。

☆事務局長 鈴木 健 / 会計 片岡 等

☆所 在 東京都立田無工業高等学校建築科内

〒188-0013 東京都西東京市向台町1-9-1

TEL : 0424-64-2225 / FAX : 0424-67-5532

mail : higasijimu@yahoo.co.jp

22. 編集後記

おかげ様にて「建築教育ニュース」2006年号ができました。
教育活動にお忙しい中、ご執筆いただきました先生方大変有り難うございました。

2006. 11
編集委員会

編 集：編集委員会 伊藤和生（墨田工高） 遠藤啓史（京葉工高）
鈴木健（田無工高）

発 行：東日本建築教育研究会（代表：能智功）

事 務 局：〒188-0013 東京都西東京市向台町1-9-1 TEL0424-64-2225
東京都立田無工業高等学校長（事務局長 鈴木健）

編集事務局長：〒135-0004 東京都江東区森下5-1-7 TEL03-3631-4928
東京都立墨田工業高等学校（編集委員長 伊藤和生）